

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.  
95  
海建

# カイケン magazine

年報  
号

研究室説明会の日程  
研究室紹介  
博士論文・修士論文・卒業研究  
就職状況



## 目次

|                              |    |                             |    |
|------------------------------|----|-----------------------------|----|
| 平成26年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当 | 2  | 教員研究業績・研究室活動業績(空間利用系)       | 16 |
| 平成26年度 学生受賞                  | 3  | 学科イベントカレンダー                 | 22 |
| 研究室紹介(空間利用系)                 | 4  | 教員研究業績・研究室活動業績(資源・エネルギー開発系) | 23 |
| 研究室紹介(資源・エネルギー開発系)           | 11 | 教員研究業績・研究室活動業績(環境保全系)       | 25 |
| 研究室紹介(環境保全系)                 | 12 | 就職情報                        | 27 |

## ●平成26年度 研究室説明会日程

| 時間<br>日程・教室       | 2時限         |                | 3時限               |             | 4時限         |                |
|-------------------|-------------|----------------|-------------------|-------------|-------------|----------------|
|                   | 10:40~11:20 | 11:30~12:10    | 13:20~14:00       | 14:10~14:50 | 15:00~15:40 | 15:50~16:30    |
| 4月3日(木)<br>1441教室 | 小林<br>[研究室] | 岡本<br>[研究室]    | 大塚<br>[研究室]       | 登川<br>[研究室] | 山本<br>[研究室] | 桜井<br>[研究室]    |
| 4月4日(金)<br>1441教室 | 佐藤<br>[研究室] | 畔柳・坪井<br>[研究室] | 増田・居駒・恵藤<br>[研究室] | 浜原<br>[研究室] | 近藤<br>[研究室] | 中西・北嶋<br>[研究室] |

## 平成26年度 クラス担任

|      | 教員氏名   | 研究室  | 電話番号         | E-mail                            |
|------|--------|------|--------------|-----------------------------------|
| 学部1年 | 居駒 知樹  | 1342 | 047-469-8482 | ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp        |
|      | 岡本 強一  | 1365 | 047-469-5568 | okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp     |
| 学部2年 | 桜井 慎一  | 1356 | 047-469-5526 | sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp   |
|      | 恵藤 浩朗  | 1341 | 047-469-5730 | eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp         |
| 学部3年 | 中西 三和  | 1362 | 047-469-5385 | nakanishi.mitsukazu@nihon-u.ac.jp |
|      | 北嶋 圭二  | 1361 | 047-469-5385 | kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp      |
| 学部4年 | 近藤 典夫  | 1353 | 047-469-5423 | kondo.norio@nihon-u.ac.jp         |
|      | 坪井 塑太郎 | 1345 | 047-469-8362 | tsuboi.sotaro@nihon-u.ac.jp       |
|      | 山本 和清  | 1346 | 047-469-5483 | yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp   |
| 大学院  | 浜原 正行  | 1366 | 047-469-5527 | hamahara@ocean.cst.nihon-u.ac.jp  |

## 平成26年度 学科校務担当

|       | 教員氏名   | 研究室  | 電話番号         | E-mail                           |
|-------|--------|------|--------------|----------------------------------|
| 就職指導  | 浜原 正行  | 1366 | 047-469-5527 | hamahara@ocean.cst.nihon-u.ac.jp |
| 学生相談  | 岡本 強一  | 1365 | 047-469-5568 | okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp    |
| 留学生担当 | 坪井 塑太郎 | 1345 | 047-469-8362 | tsuboi.sotaro@nihon-u.ac.jp      |

## 学科事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室  
TEL : 047-469-5420 FAX : 047-467-9446

岡崎 敏美  
林 敦子

okazaki@ocean.cst.nihon-u.ac.jp  
hayashi@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

## 学生受賞

### ●部科校長賞

小川雅人：業績 日本建築学会「優秀卒業論文賞」受賞  
石原幹太：業績 社団法人総合デザイナー協会（DAS）  
学生デザイン賞「最優秀賞」受賞

### ●優等賞

第1位 渡邊航一  
第2位 荒川 滯  
第3位 徳永尚亮  
第4位 重松昌孝

### ●加藤賞

高山淳平：避難誘導のための津波ハザードマップ開発に関する研究  
（修士論文）  
村田一城：港湾内における浮体式栈橋を用いた船舶の津波被害低減  
法に関する基礎的研究（修士論文）  
杉本太一：高強度長方形断面 CFT 柱の圧縮性能に関する実験的  
研究（修士論文）

### ●海建優秀賞

岩澤 直：サーファーに対する津波避難情報の伝達に関する研究  
ー神奈川県湘南3海岸でのアンケート調査結果ー（卒業  
論文）  
宮内大輝：津波遡上時における有効な避難施設の配置計画に関する  
基礎的研究（卒業論文）

### ●桜建賞

津端里佳：都市の水辺を活用した小学校における環境教育に関する  
研究ー東京都江戸川区を対象としてー（卒業論文）  
菅野裕識・早坂祐貴・堀内栄治：津波漂流物の衝突を想定した部材  
の挙動に関する基礎的研究ーその2・弾性梁部材を対象  
とした錘の衝突実験ー（卒業論文）  
一瀬祐介・大川 峻：PC構造の復元力特性に関する研究ーその1ー  
（卒業論文）

### ●海建賞

三角裕志：東京湾におけるアサリネットワークの基礎的研究  
ーアサリ幼生の鉛直分布についてー（卒業論文）  
吉瀬 遼・飛田奈央：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムに  
よる堆積汚泥の浄化実験ーその1・流速変化が硫化水素  
に与える影響ー（卒業論文）  
荒川大輝：上総湊における海岸浸食の実態（卒業論文）  
小澤貴志：津波関連標識のデザインに関する研究（卒業論文）  
小林良次：直列2角柱のウェーク・ギャロッピングに関する数值的  
研究（卒業論文）  
山川大喜：恥ずかしがりやの集合体ー都市における新しい「下町」  
的生活のすすめー（卒業論文）  
佐藤寛深：画像処理技術による漂着ごみ判別手法を用いた調査手法  
の提案（卒業論文）

### ●桜工賞

菅原雅之：  
日本建築学会（最優秀賞・復興プロジェクト部門セッション）  
MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012  
（最優秀作品賞・空間デザイン部門）・都築響一賞  
作品：「水樞ー福島第一原発における封印機能を持つ博物館の提案」

櫻井陽子：  
日本建築学会（優秀発表賞・シェル空間構造部門）  
発表：「エラスティカを利用した膜面への張力導入法の提案」

藤生拓身：卒業アルバム編集委員・編集長

### ●平成 25 年度理工学部学術講演会優秀発表賞（口頭発表部門）

坂東美乃利：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究ー長方形 CFT  
柱の実験結果ー  
佐々木成紀：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の柱梁接合部  
の性能に関する研究ーその1・実験概要ー  
小川雅人：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的  
研究ー人口分布を考慮した津波避難ビル指定地域の防  
災性評価ーその3ー

### ●平成 25 年度理工学部学術講演会優秀発表賞（ポスター発表部門）

鈴木健一：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量実態解析に  
ついて  
飛田奈央：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムによる堆積  
汚泥の浄化実験ーその2 最適流速の継続時間が浄化性  
能に与える影響ー  
西野元貴：微生物活性剤として酵素成分を用いた堆積汚泥の浄化実  
験ープロテアーゼ、セルラー是の最適な配合比率の検討ー  
村松拓人：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的  
研究ー東日本大震災の被災地における津波避難ビルの利  
用及び被災状況ーその1ー  
安彦智啓：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的  
研究ー人口規模からみた津波避難ビル指定の地域的傾向  
その2ー  
渡邊航一：アユタヤ地域の洪水を基軸とした水際住居の居住空間  
特性と住民の意識及び行動特性に関する調査研究  
津端里佳：都市の水辺を活用した小学校における環境教育に関する  
研究ー東京都江戸川区を対象としてー  
山下聡士：タイ・バンコクの郊外に立地する水上マーケットに関する  
調査研究ー水上マーケットの水辺の空間的・形態的特  
徴の把握ーその1ー  
永田佳大：常時滞水型調整池の水域利用に関する研究ー水域面積の  
異なる4か所の調整池の比較を通じてー  
高山淳平：避難行動を考慮した津波ハザードマップの開発手法に  
関する基礎的研究



## Teaching Staff



教授  
畔柳 昭雄



准教授  
坪井 塑太郎

## ● 研究室紹介

本研究室では、「水と人とのかかわり」を基本テーマとして、水と建築、水と空間、水と場所、水と生活について考究します。そのため、「歩く・見る・考える・伝える」を重視し、建築を見て、都市を感じ、海を知り、地域を理解することからはじめます。また、素養を身に付けるための関連の文献紹介や研究解説などを行い、理解増進や興味・関心を深められるようにし、研究に求められる協調性や積極性、独創性及び思考力を養うためのワークショップも行います。こうした調査研究の経験を通して、将来、社会において活躍できる人材の育成を行います。

## ● 卒業研究のテーマ

## [人間・活動・環境系]

- ・人と水辺空間との関係性の研究
- ・生活用水の利用行動と評価に関する研究
- ・アジア諸都市の水資源・水環境に関する研究
- ・都市や地域の中での居場所の研究

## [建築・都市・防災系]

- ・洪水常襲地域における建築と地域対応に関する研究
- ・地理情報システム (GIS) を用いた地域解析研究
- ・時代や場所を考慮した親水施設の特性に関する研究
- ・都市化による流域の地域変化と対応に関する研究
- ・洪水・津波災害リスク対応と地域政策に関する研究
- ・建築が持つ「動的要因」に関する調査研究

## [デザイン系]

- ・浮体式海洋建築物のデザイン
- ・都市熱緩和のための新たな親水空間のデザイン

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、CAD や Illustrator などの技術の習得と同時に、デザインビルドを竹材やアルミを利用して行います。7月にはお台場海浜公園に1日限りの「海辺の図書館」を竹のパーゴラを使って開設します。2013年度は、ゼミナール研修旅行で海外(タイ・バンコク)でのデザインサーベイを実施しました。

## ● 着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください(デザイン系を志望する学生は、設計製図で制作した作品を必ず持参してください)。希望者は、卒業研究着手や就職活動に支障



のないように単位を履修していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

## ● 卒業論文

- 多田幸寛：全国の洪水常襲地帯における水防建築の特徴に関する研究
- 竹内寛偉：近畿・四国地方における建築と水との関係を基調とした空間づくりに関する研究—大阪府・京都府・兵庫県・香川県を対象として—
- 津端里佳：都市の水辺を活用した小学校における環境教育に関する研究—東京都江戸川区を対象として—
- 横田憲寛：大井川下流域における風土と水防建築の空間構成に関する調査研究
- 渡邊航一：アユタヤ地域における水際住居の居住空間特性に関する調査研究—地域特有の伝統的技術と人間と水との係りについて—
- 岡 諒一：水関連の用語を持つ集合住宅の立地分布から見た水辺の影響範囲—東京都江東区を事例として—
- 村松拓人：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的研究—その1 機能・用途からみた津波避難ビルの規模的特徴
- 吉原 稜：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的研究—その2 避難スペースからみた津波避難ビルの建築的特徴
- 安彦智啓：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的研究—その3 施設の機能・用途からみた津波避難ビル指定における地域的傾向
- 神崎良太：児童の行動から捉えた河川空間の位置づけに関する研究—その1 荒川下流域を対象として—
- 小暮直弘：児童の意識から捉えた河川空間の位置づけに関する研究—その2 荒川下流域を対象として—

## ● 修士論文

- 小川雅人：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的研究—南海トラフ巨大地震に伴う被害想定地域を対象として—

## Teaching Staff

教授  
桜井 慎一

## ● 研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

(1) 社会人として最も大切なのは時間を守ることです。3年でゼミに入って最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を目で見て把握し、主体的に時間を管理し、破綻のないスケジュールリングを計画・実践する技術を身につけます。(2) ゼミ論や卒研のテーマは、今、不満に感じていること、将来、必要になってくことを考え、学生自らが提案します。計画や企画の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。(3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。原稿を見ず、自分の言葉で、誰にでもわかるように、決められた時間の中で、興味を引きつけ飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

## ● 卒業研究およびゼミナールのテーマ

## (A) ウォーターフロントの環境創造・環境評価

- ① 常時滞水調整池の市民開放に関する研究
- ② ペット専用ビーチの整備と運営に関する研究
- ③ 水中文化財を対象としたダイビングスポット整備
- ④ 水辺環境に適合する屋上緑化手法の研究
- ⑤ ビーチクラブによる海岸利用・管理の研究

## (B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方策
- ⑦ 海岸景観に調和する擬岩の適正利用
- ⑧ 水辺環境を活かすボードウォークの適正利用
- ⑨ 水辺景観を引き立たせる防護柵のデザイン
- ⑩ 消波ブロックの美的配置に関する研究

## (C) ウォーターフロントの有効利用と空間整備

- ⑪ 朝市型路上店舗による沿岸地域活性化方策
- ⑫ 日本の海岸美を継承する灯台の保存・活用
- ⑬ ウォーターフロントの産業観光資源の発掘調査

## (D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑭ 橋詰広場の多目的利用に関する研究
- ⑮ 海洋レクリエーションの津波避難対策
- ⑯ 東京湾における津波被害と対策
- ⑰ 津波記念碑の市民認知継承に関する研究
- ⑱ 船舶を用いた帰宅困難者輸送の研究

## ● ゼミナール活動

前期は、時間管理、情報収集、資格取得、進路就職などに関



2013年のゼミ旅行（函館山）

する座学、三番瀬や都心 WF の見学会を実施します。夏季休暇以降、12月までの約半年間をかけて個別テーマによるゼミナール研究論文を作成する。その成果は学術講演会などで発表し、就職活動にも役立てます。

## ● 2014年度の主な行事予定

- ① 新入室ゼミ生歓迎会（5月）、② 三番瀬体験散策会（6月）、③ ウォーターフロント見学会（7月）、④ 夏季研修旅行（9月）大阪・神戸、⑤ 学術講演会での論文発表（12月）、⑥ ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦ 桜井研発表会&懇親会（2月）

## ● 着手条件

説明会参加者の中から個人面談によって決定します。ウォーターフロント計画、建築法規、都市計画等の科目を履修していることが望ましい。

## ● 卒業論文

- 岩澤 直：サーファーに対する津波避難情報の伝達に関する研究－神奈川県神奈川3海岸でのアンケート調査結果－
- 長島美菜子：海の家クラブ化が近隣に及ぼす影響に関する研究－神奈川県4か所の海水浴場を対象とした住民アンケート調査－
- 永田佳大：常時滞水型調節池の水域利用に関する研究－水上レクリエーション可能な3か所の比較考察－
- 栗原聖子：洋上風力発電施設設置に対する漁業従事者の認識と評価
- 塚田紗衣：大型クルーズ客船の受け入れ体制に関する研究－全国の港に対するアンケート調査結果－

## ● ゼミ論文

- 島山礼暉・大畑孔明：ウォーターフロントにおけるスケートボードパークの利点と課題
- 佐俣良平：利用者の視点からみたウォーターフロントの適切なベンチ配置に関する研究
- 島山北斗：河川の水難事故発生の特徴に関する研究
- 横山 巧：渡邊祥太郎：南海トラフ大地震被災想定地域における津波避難タワーの現状と課題
- 吉原 亮：沖縄県におけるリゾートホテル前浜のプライベートビーチ化の現状と課題
- 池上信太郎・菊池諄光：神奈川県太平洋沿岸地域における津波避難誘導看板の現状と課題

## 計画分野

空間利用系

## 建築デザイン・計画研究室

1351 室

## Teaching Staff

専任講師  
佐藤 信治

## ● 研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築が好き！であることが大切です。しかしながら建築を設計する前段階としては建築を計画することも重要な分野です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで(含・施工)の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望します。将来の進路に関しては、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援しています。

## ● 卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計〉と〈計画〉の両分野から研究します。従って卒業研究は最終的に設計テーマと計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

## 〈設計テーマ〉

- ・水環境を活かした各種建築のデザイン
- ・3D プリンターによる新しい建築空間の創造

## 〈計画テーマ〉

- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザイン研究
- ・社の空間解析に関する研究

## 〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、風車による新エネルギーで町おこしを進めている秋田県能代市において、商店街の再生やミュージアムなどをデザインし、お祭りに参加させて頂くなど地元の方と積極的に交流しました。

2011年度より、中国北京の中国建築設計研究院において、海外インターンシップを開催しており、中国国内の設計コンペに共同で応募するなど国際交流が進められています。

## ● ゼミナールのテーマ

設計・計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。

## ● 着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの設計作品を面接日に持参してください。ただし計画分野の希望者はこの限りではありません。

## ● 卒業論文

遠洞躍斗：人生に寄り添う建築 生から死までの儀式を行う場  
川崎 将：余白と仮設の舞台 石巻市中瀬地区における新たな漁業施設の提案／善財寛之：おもてなしの文化アキバにおける「和」旅館の提案

田原 拓：生き物と人間の接点 - 外来生物に対する啓発・研究を行う博物館の提案-

辻 晋：東京平和公園-日本の平和ボケを守るために

徳永尚亮：Urban Cultivation 都市・公共交通の効率とゆとりのアメニティ再考

山川大喜：恥ずかしがりやの集合体-都市における新しい「下町」的生活のすすめ

岩本桃果：氏子の寄る橋-愛媛県西条市における治水施設の提案

椿 礼：硝子の幽閉-意識と認識による海上刑務所

鈴木彩美・鶴田亜有美：社の空間構成に関する研究 その6 社における地形と鎮座方向について

中山博貴：社の空間構成に関する研究-その7 神社の参道空間の断面形状の測定方法について

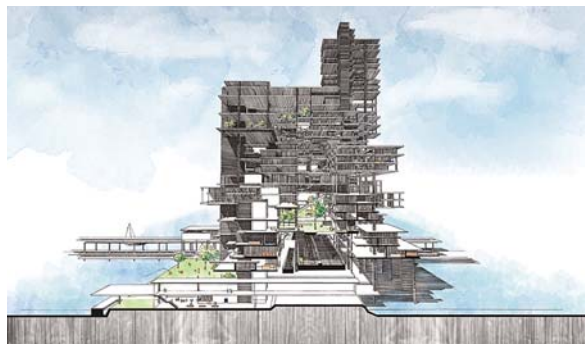
## ● 修士論文

鴨志田航：横浜市新庁舎の設計-大規模庁舎の海岸通り地区への移転計画-

石原幹太：静岡県三保地区のケル複合福祉施設の設計-地域に開かれた健康促進・交流施設の提案-

榎本翔太：東北マリンサイエンス拠点事業における水産復興総合研究施設の設計

菅原雅之：田町操車場跡地土地区画整理事業に伴う山手線新ターミナルビル設計-多様な防災機能を取り入れた複合施設の提案-



涌井匠（現大学院生）：MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 - EXCELLENCE PRIZE 受賞作品、浸都の改築 -海抜ゼロメートル地帯における街区更改計画-



夏季合宿旅行における建築作品見学会（秋田国際教養大学の図書館内部）での一コマ



## Teaching Staff

専任講師  
山本 和清特任教授  
近藤 健雄

## ● 研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「アクセスディンギー」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してアクセスディンギーの体験乗船会を実施し、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。このような活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

## ● 卒業研究のテーマ

## 【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

## 【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

## 【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

## ●着手条件

特になし。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

## ●卒業論文

- 遠藤隼平：東北地方太平洋沖地震におけるマリーナ被害・復旧状況に関する研究
- 大谷 涼：特定地域振興重要港湾の振興ビジョンの把握に関する研究
- 小澤貴志：津波関連標識のデザインに関する研究
- 川崎 凌・川又卓弘：東京湾（千葉県側）における企業のBCPに関する基礎的研究
- 野中 大輔：海の世界教育における安全管理に関する研究—三番瀬における環境教育の安全管理において—
- 平松成美：ポートルネッサンス21計画が都市に与えた影響に関する研究
- 広瀬紗也加：海岸漂着ゴミに対する法整備の現状と地域連携に関する調査研究—九州7県を対象として—
- 藤生拓身：津波災害時における自動車避難に関する調査研究—千葉県長生郡一宮町を対象として—
- 鶴 康嗣：地域防災計画における港湾施設の役割に関する研究
- 三好隆正：災害時要援護者における自主防災組織の構築に関する調査・研究—千葉県長生郡一宮町を対象として—
- 高橋知子：国立青少年自然の家での水辺の活動プログラムに関する研究

## ●修士論文

- 寺崎康雄：災害時要援護者に対する住民意識から見た避難支援計画に関する研究



アクセスディンギー体験乗船風景

## Teaching Staff



准教授  
近藤 典夫

## ● 研究室紹介

当研究室は、大スパン構造物や海洋構造物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして構造物および人間にどのような影響を与えているのかなどを、コンピュータ・シミュレーションの手法を使って研究活動をしています。研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。



ゼミ・卒研発表会の風景（軽井沢研修所）

## ● 卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

## 【1】流体運動

- 1) 構造物まわりの気流の数値的研究
- 2) 構造物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋構造物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

## 【2】構造物の不安定振動

- 1) 風力を受けた構造物の渦励振の数値的研究
- 2) 海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

## 【3】シェル構造解析

- 1) シェル構造物の動的・静的解析
- 2) シェル・空間構造物の減衰特性

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習とその応用演習を行い、研究に必要な知識を習得します。

- 1) 数値流体力学と弾性力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法
- 3) コンピュータ・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）などを予定しています。

## ● 着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。

## ● 卒業論文

江森大樹：ヒートアイランド現象に関する数値解析—温度低減に対する緑地の効果—

島村拓磨：地震動による円筒型タンク内の液面動揺に関する研究

西村 萌：大きな間隔比で配置した直列2円柱の流力振動に関する3次元数値解析

富山恭平：鉄筋コンクリート球形シェルの減衰定数評価

齋藤大介：長方形角柱のウェーク・ギャロッピングに関する3次元解析

下矢直貴：防風壁を有する橋梁構造物の流力特性に関する数値解析

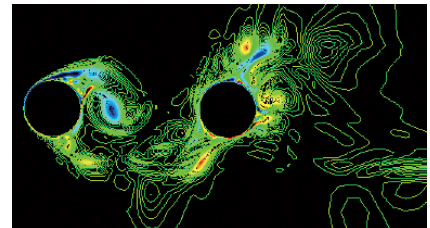
小林良次：直列2角柱のウェーク・ギャロッピングに関する数値的研究

## ● 修士論文

田中裕基：並列配置した近接2円柱の流れ方向および流れ直交方向の渦励起振動に関する3次元数値シミュレーション

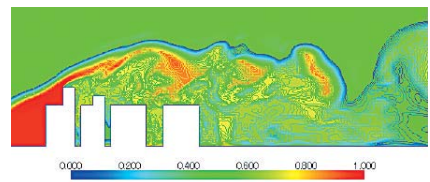
服部 諒：辺長比の大きい角柱構造物の流体力特性に関する3次元数値シミュレーション

海流



振動している2円柱まわりの流れ（渦度表示）

風



建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



## Teaching Staff

教授  
中西 三和准教授  
北嶋 圭二

## ● 研究室紹介

構造力学、構造設計、建築防災に関連する下記に示す研究が主要テーマであり、上記スタッフの指導を受けることができる。

## 1. 鉄筋コンクリート（RC）造建物の耐震性能に関する研究

- ・ 損傷低減のための耐震設計法並びに補強技術の開発
- ・ 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- ・ 高強度 CFT の構造性能に関する研究
- ・ 長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の構造性能に関する研究

## 2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- ・ 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- ・ 滑り基礎構造システムに関する研究
- ・ 折返しプレースを用いた構造システムに関する研究
- ・ 制震補強建物の性能評価・表示法に関する研究
- ・ ハニカム構造や薄鋼板構造に関する研究

## 3. 海洋建築物の構造設計法に関する研究

- ・ 津波漂流物の衝突に関わる研究
- ・ 海洋建築物設計指針策定に関わる調査・研究
- ・ 氷海構造物の応答性状に関する研究
- ・ アイスドームの製作に関する研究

## 4. その他、企業からの委託研究など

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターのテストフロアや二軸振動台、環境・防災都市共同研究センターの最新設備を用いた建築構造システム並びに建築構造部材の性能に関する実験的研究が多いことや、建築物の弾塑性地震応答解析などコンピューターシミュレーション技術を用いた解析的研究が多いことである。また、テクノプレース 15 に設置されている低温実験室の模型氷海水槽を用いた実験等も行っている。建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか、幅広い分野を対象に研究を行っている。

## ● 卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定する。

## ● ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験  
前期は基礎的な力学の勉強会を行う。また、海洋構造物や陸上の建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるための小型模型実験を行う。実験は学部祭にて公開する。

## ● 着手条件

特になし。

## ● 卒業論文

- 小形尚己・後藤拓磨・橋本晋吾・松本翔太：エラストिकाを用いたアイスドーム製作に関する実験的研究  
菅野裕識・早坂祐貴・堀内栄治：津波漂流物の衝突を想定した部材の挙動に関する基礎研究  
倉田洋輔・中村琢真・星川真也：CFT 柱の打ち込み位置による性能の違いに関する実験的研究  
甲佐太一・重松昌孝・西田翔：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の柱梁接合部の性能に関する研究  
田部美月・馬場友莉：あと施工型せん断補強筋を用いた RC 造梁のせん断補強効果に関する実験的研究  
永田大輔：細長比  $\lambda$  533 の極細芯材を用いた折り返しプレースの実験的研究

## ● 修士論文

- 石渡晶悟：漂流物の衝撃を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究  
佐々木成紀：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の柱梁接合部の性能に関する研究  
櫻井陽子：張力膜構造を用いたアイスドームの製作に関する実験的研究  
杉本太一：高強度長方形断面 CFT 柱の圧縮性能に関する実験的研究  
渡邊恭平：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物に関する研究



大型構造物試験センターで実施した PC ハニカム構造の実験



低温実験室における氷海構造物の実験

# コンクリート構造工学研究室

1366 室

## Teaching Staff



教授  
浜原 正行

### ● 研究室紹介

**研究のこと：**私たちの研究室ではプレストレストコンクリート構造を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指し研究を進めています。私たちの研究室での合言葉は、「世の中に直接役立つ研究をする！」です。これをもうちょっと具体的にいうと、「その成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」ということです。そして、そのためには、独創性が高いだけでなく構造設計者、研究者が使ってみたくなるようなシンプルで信頼性の高い研究成果を生み出す必要があります。私たちがやってきた研究はこの要求をある程度満たしているのではないかと内心密かに自慢しています。

**研究室の雰囲気：**堅い話になってしまいましたが、私は、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であると考えており、研究室を教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。

**年間行事：**以下のような行事を予定しています。

**顔合わせ会：**所属の決まったゼミ生が卒研生、院生、教員親睦を深めるために5月初旬に実施します。

**八海山または軽井沢研修会での研究発表会：**ゼミ生が卒研生、院生が行っている研究を発表するために9月初旬に行います。発表終了後は無礼講のリラックスタイム。

**実験の打ち上げ：**実験が終了したとき、これを祝うための行事です。その他、めでたいことなどがあれば適宜リラックスタイムを設けることにしています。

### ● 卒業研究のテーマ

- 1) 異形 PC 鋼棒を用いたプレキャストプレストレストコンクリート部材のせん断性状に関する研究
- 2) プレストレストコンクリート圧着継目の滑り性状に関する研究
- 3) プレストレストコンクリート有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) プレストレストコンクリート骨組の柱・梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 5) プレストレストコンクリート骨組の耐震設計法に関する研究
- 6) プレストレストコンクリート構法を用いた津波避難ビルと高層集合住宅の開発

上記の卒業研究の内、1)、2) は実験を主体としており、フィールドワークが好きな人に向いています。3)～6) は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれない。

研究テーマだけを見ていると面白みはあまり感じられないかも知れませんが、君たちが、実際にこれらのテーマに取り組んでみればはまること請け合いです。

### ● ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組の解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士に出題されている構造系科目を解く
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル (CAD、エクセル、パワーポイント) の修得

テーマ1)、テーマ2) は、それぞれ週1回私が担当し、テーマ3) は週2回大学院生が担当しています。ゼミの開催曜日と時間は、ゼミ生、私、大学院生の都合が折り合うところ設置しています。ゼミ生はこれらのテーマから少なくとも二つ選択してもらうこととなります。

3年次には君たちが受講しなければならない大切な専門科目が目いっぱいあるので、ゼミ生には、そちらにも十分な時間が割けるようできるだけ配慮したいと思っています。

### ● 着手条件

特に設けていません。構造力学、応用力学の知識はゼロであることを前提とした指導を行いたいと考えています。(ただ、極めて稀ではありますが、2年を修了した時点で構造力学、応用力学をちゃんと理解している学生もいます。このような学生には別途対応したいと思います。) 私の研究室では、成績最悪の学生がゼミや卒研をやっているうちに研究に目覚め大変身を遂げた例が結構ありました。私としては、君たちにもぜひそうなってほしいのです。

### ● 卒業論文

- 山崎祐輝・長拓冬・松本成樹：RC 柱のトラス機構の構成条件に関する実験的研究 (その1～その3)
- 一瀬祐介・大川峻：PC 構造の復元力特性に関する研究 (その1、その2)
- 押方友野・山田泰之：PC 造 L 型柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究
- 櫻井琢己・深澤準平：PCaPC 柱の圧着滑り耐力に関する研究

### ● 修士論文

- 小松崎真彦：異形 PC 鋼棒を用いたプレキャストプレストレスト柱のトラス機構の構成条件に関する実験的研究

## 海洋空間利用工学研究室

1341室・1342室

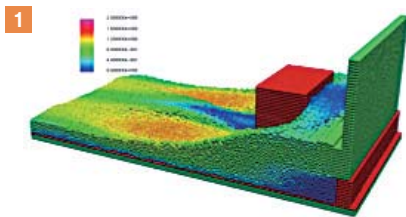
## Teaching Staff

教授  
増田 光一准教授  
居駒 知樹助教  
恵藤 浩朗

特任教授 木下 健

## ● 研究室紹介

<津波・防災> (増田光一) 東日本大震災により津波防災の重要性が改めて認識された。当研究室では主に東海地震を対象に10年以上の時間をかけて浮体構造物と津波、遡上津波による建築物への衝突荷重を研究してきた。これらのノウハウをさらに活かして今後の巨大津波に備える研究を継続している。



<海洋再生可能エネルギー利用> (居駒知樹) 海洋エネルギーを利用するための浮体式構造物の流体力学的性能評価を行いながら波力・潮流・浮体式洋上風力施設の研究・開発を実施する。そのための理論・数値解析方法、計算プログラムの開発を行うとともに水槽実験等により物理的な現象の把握と設計への応用を考察する。



<浮体建築物構造計画及び設計> (恵藤浩朗) 様々な浮体を活用したアイデアが公表されているが、それらはなかなか実現に結びついていない。そこで浮体に関する様々な研究成果と海事産業をシームレスに繋ぐために浮体式海洋構造物の構造計画および設計手法の確立を目指して研究を行う。



1 津波荷重計算結果 2 スーパー型洋上風力発電装置  
3 災害時医療支援浮体イメージ

## ● 卒業研究のテーマ

上述の研究室紹介に記載した大きな3つのテーマに関する卒業研究を各自の希望に基づき選択し実施する。

## ● ゼミナールのテーマ

週1回の講義、演習形式ゼミナールがメインの活動です。また実際に水槽実験の補助をすることで海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場に触れることができます。講義ではプログラミングを一から勉強すると共に、簡単な水波の理論について学びます。

## ● 着手条件

「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生を重視します。また大学院への進学希望者を歓迎します。津波防災や海洋再生可能エネルギー利用・開発、浮体式建築物の新たな活用方法などに興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。なお、ゼミ着手希望者は随時研究室で説明を実施しますので必ず面接を受けて下さい。

## ● 卒業論文

荒川 濤・鳩貝一輝：津波作用時のコンテナ漂流と建築物への衝突に関する基礎的研究

碓谷洋一郎・清水 研：河川における災害時医療支援浮体の適地選定及び構造計画に関する基礎的研究

五十嵐力也・桜井遥央：河川における災害時医療支援浮体の計画・運用に関する基礎的研究

榎本 修・高島まどか：浮体式PW-OWC型波力発電装置の一次変換係数に関する実験的研究

菊地幸司・木下大輔：大型石炭浮体の隔壁配置に関する検討

佐々木駿：振動水柱型波浪発電システムとしての廃船再利用の可用性に関する基礎的研究

関 貴仁：河川交通を利用した傷病者搬送、帰宅困難者支援のための搬送シミュレーションに関する基礎的研究

高橋真矢：垂直軸型可変ピッチ翼水車の起動トルクに与えるソリディティの影響に関する研究

平井優樹：MPS法による複数コンテナの漂流シミュレーションに関する基礎的研究

星野智史：沿岸域における物流機能維持のための津波ハザードマップに関する基礎的研究

宮内大輝：津波遡上時における有効な避難施設の配置計画に関する基礎的研究

## ● 修士論文

高山淳平：避難誘導支援のための津波ハザードマップ開発に関する研究

田口裕之：防波堤に設置された振動水柱型波力発電装置の一次変換性能に関する研究

中澤那世留：垂直軸可変ピッチ翼水車の高性能化に関する研究—ソリディティとピッチ制御角度の影響

村田一城：港湾における浮体式栈橋を用いた船舶の津波被害低減法に関する基礎的研究

渡邊由香：OWC型波力発電装置を搭載した大型浮体の年間発電量に関する研究



## Teaching Staff



助教  
大塚 文和

## ● 研究室紹介

私たちの研究室では、海洋環境について自分たちでいろいろな角度から観測し、海洋環境の実態を理解することから始めます。そして、単に自分たちが理解するだけでなく、自分たちの成果をより社会に役立たせるため、観測結果を基にいろいろな解析をするとともに、水域環境の詳細な解明や環境変化の将来予測のための数値シミュレーション技術の開発にも取り組んでいます。

私たちの研究室では、『楽しく研究、笑顔で卒業!』を合い言葉に活動します。私(大塚文和)が、海洋を中心とした建設コンサルタントとして長年実務にかかわり、太平洋を帆船で横断した経験から、みなさんには“海”に楽しくかわる気持ちをお忘れず、楽しく海洋環境を研究し、それを社会で役立てて欲しいと望んでいます。



研究室合宿

## ● 卒業研究のテーマ

卒業研究では、東京湾を対象に次のようなテーマを考えています。

- ① 荒天時における環境変動の解析と予測
- ② 都市排熱による水域環境の変動解析と予測
- ③ 放射性物質の実態解析と拡散予測
- ④ 生態系ネットワークの解析

上記①では、東京湾付近を台風が通過した場合の海上風と東京湾の流れや水質等を数値モデルを用いてシミュレーションし、東京湾で常態化している負酸素水塊の荒天時における変化を解析します。

②では、都市部からの排熱の流入が東京湾の環境に与えている影響について解析します。特に、東日本大震災の後、電力不足から火力発電所の増設等が続き、火力発電所からの排熱の増加により東京湾の熱環境は震災前後で大きく変化していることが考えられますので、その実態を明らかにしたいと考えています。

③では、東日本大震災に伴って発生した福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質が、東京湾にどのように入ってきているのかを観測データを用いて解析し、将来における流入量を予測します。また、三番瀬及び葛西臨海公園海浜を対象に、干潮時に干潟に行って放射線量の現地調査を行い、親水域における放射性物質の実態を明らかにします。



干潟での放射線量観測

④では、まだまだ解明されていない東京湾の生態系ネットワークの一つであるアサリのネットワークについて研究します。アサリ幼生の観測結果を基に、幼生の遊泳行動について解析します。また、幼生の遊泳行動の数値モデルを開発し、東京湾におけるアサリネットワークの実態を解析します。

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、「海洋環境を知る」をテーマに、実際に干潟に行き環境の観測をしたり、船に乗って東京湾を海上から調査したりします。また、東京湾をより良く知るために、東京湾の模型などの製作も行います。

## ● 着手条件

個人面談を行って決定しますが、大学に来るのが好きな方を望みます。環境関係の科目をあまり履修していなくても構いません。特に、海が好きの方、あるいは“環境”に興味のある方は、歓迎です。

## ● 卒業論文

三角裕志：東京湾におけるアサリネットワークの基礎的研究  
アサリ幼生の鉛直分布について

吉松亮一：東京湾における熱環境の変動解析

方喰 稜：東京湾における放射性物質拡散に関する研究—船橋三番瀬海浜公園における放射性物質の実態解析

鈴木健一：東京湾における放射性物質の拡散に関する研究—葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量の実態解析

宮坂雅暢：江戸川における放射性物質の流下量の推定

神野公輔：メソスケール気象モデルによる海上風推算に関する基礎的研究

鈴木康貴：東京湾における地形変化に伴う流況変化に関する研究

亀井湧介：紅斑紫外放射輝度分布に関する研究



アサリネットワーク模式図

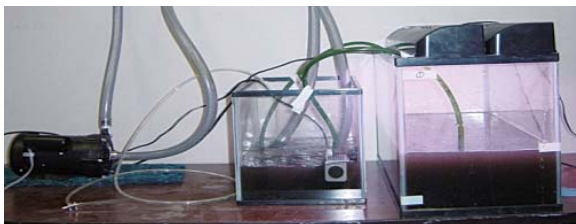
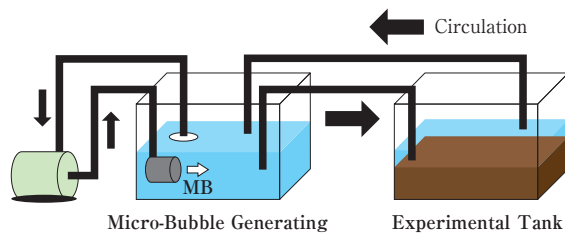
## Teaching Staff

専任講師  
岡本 強一特任教授  
堀田 健治

## ● 研究室紹介

本研究室は環境工学に関する調査研究と技術開発を行っています。研究は主に「環境再生」をめざし、生態システムの再生、整備に関する実証実験、環境シミュレーション、モニタリング調査を通じ、沿岸域・海域における豊かで快適な居住環境の実現のための技術開発と研究を行っています。

特に、生物生息環境の改善・修復・創出をするためには、環境工学技術によって人間活動の影響をなくすのではなく、生態系と共生することが重要であり、人間や生態系をシステム全体として取り扱おうとする「生態システム工学」を念頭に、海の「環境再生」を目標にします、また特に、水質浄化について研究しています。



循環型浄化システム

## ● 卒業研究のテーマ

## 1. 「実験的手法に基づく環境再生（水質浄化）」

- ・マイクロバブルと微生物による水質浄化（循環型浄化システムを用いた水質浄化）
- 沿岸域の堆積汚泥に対する浄化
- セシウムに汚染された沿岸域の堆積汚泥の除染
- ・凝集剤を用いた水質浄化
- ・電気分解の原理を用いた水質浄化（東京大学生産技術研究所・北澤准教授と共同研究）



夏合宿

## 2. 「理論的アプローチによる環境再生」

- ・ Ecological Footprint 指標を用いた環境影響評価法

## 3. 「環境再生のための環境モニタリング」

- ・ 海洋環境モニタリングシステムの開発
- その他、学生からの新しいテーマの提案も大歓迎です。

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは、勉強会による基礎知識の習得を通して、具体的な卒業研究のテーマの選定を行います。

最終的にゼミ論をまとめてもらいますが、失敗を恐れず、挑戦的なテーマで実験を主体に行っています。これを通して現象の理解を深め、かつ、測定方法の習得をしています。以下が最近のゼミ実験です。

- ・ 実海域での堆積汚泥の浄化システム
- ・ 循環型浄化システムにおける酵素の配合比率
- ・ 微生物と凝集剤を用いた新しい浄化システム など
- なお、ゼミの出席は重視しています。

## ● 着手条件

研究室説明会に出席して、必ず個人面談を受けて下さい。やる気のある人を優先します。

## ● 卒業論文

- 吉瀬 遼：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験 その1 流速変化が硫化水素に与える影響
- 飛田奈央：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験 その2 最適流速の継続時間が浄化性能に与える影響
- 西野元貴：微生物活性剤として酵素成分を用いた堆積汚泥の浄化実験 その1 プロテアーゼ、セルラーゼの最適な配合比率
- 中阪大貴：微生物活性剤として酵素成分を用いた堆積汚泥の浄化実験 その2 栄養分の違いによる浄化性能
- 池田貴紀・石垣法宏・尾田雄大：循環型浄化システムにおける水温の違いによる堆積汚泥の浄化性能

## ● 修士論文

- 木村正裕：海洋バイオマスの生産に関する基礎的研究—シアノバクテリアの適正生育条件の検討—（指導：特任教授 堀田健治）



## Teaching Staff

教授  
小林 昭男助手  
野志 保仁

## ● 研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、財団法人土木研究センターと独立行政法人水産総合研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子

## ● 卒業研究のテーマ

主な卒業研究テーマは次の通りです。研究の成果は、必ず社会全体に役立つものになります。

## 1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発
- 3) 津波対策に有効な海岸施設の新しい設計方法
- 4) 非線形な波と波力の計算技術の開発



海岸侵食の実態

## 2. 海洋空間の高度な利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷
- 3) 洋上施設の沖合展開に必要な新しい係留方法

## ● ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法も学びます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題を学びます
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供しています



先輩たちとの交流会

## ● 着手条件

2013年度の卒研生・ゼミ生は私たちの研究を推進させる人材として期待しています。海浜環境に興味のある学生は、熱い気持ちや想いを私達に伝えにきてください。

## ● 卒業論文

- 荒川大輝：上総湊における海岸侵食の実態  
北村俊介：日在浦海岸における海浜変形の実態  
草木大地：神向寺海岸および明石海岸の礫養浜後の海浜変形機構調査  
古屋成吉：沖ノ島背後におけるトンボロの形成機構  
三田航平：富津岬北岸における海洋変形機構  
谷中峻祐：那古船方海岸における海浜変形と突堤の効果  
吉野貴之：等深線変化モデルによる布引海岸の現象再現

## ● 博士論文

- 遠藤将利：セルオートマトン法を用いた海浜変形予測モデルに関する研究



## Teaching Staff

教授  
登川 幸生

## ● 研究室紹介

本研究室では、海洋建築分野において、コンピュータやネットワークを利用したデジタル情報システムに関する研究を展開しています。

誰でもがコンピュータや携帯電話を利用するようになり、それらがネットワークで接続されて、有益な情報を手軽に利用できる社会基盤が整ってきました。これらはすべて、文字、写真、動画などの情報がデジタル化されたことにより実現しています。このような情報社会では、インターネット上や個人、組織の中に膨大なデータが蓄積され続けていますが、どのように処理をすれば新しい知見が得られるのか、まだ解っていません。普段、我々が何気なく使っている情報システムが、どのような技術によって実現しているのかを知れば、そこから新たに便利なシステムを作り上げたり、活用することができます。

現在、海洋分野や建築分野で、情報を適正に扱い、有効に活用できる技術者が求められています。本研究室では、これらのデータの生成、蓄積に寄与するとともに、これらのデータから海洋建築分野における新しい知見を得るための情報処理技術者を育成しています。

## ● 卒業研究のテーマ

現在、研究室で着手している次のような研究テーマは、デジタル情報技術を応用したものです。

## ・ 自動車による避難のシミュレーションに関する研究

→ コンピュータ内の仮想空間に地形や道路情報を作り、避難時の自動車の動きを再現して災害時の避難計画に役立てます。

## ・ 画像処理技術を用いた海岸汚染調査手法の研究

→ 海浜の画像から海ゴミなどの海浜環境を汚染する物質を自動的に検出して汚染傾向を把握することにより、海浜環境の保全に役立てます。

## ・ データベースを活用した海洋情報活用に関する研究

→ ネットワークや研究施設等に保存されているデジタルデータと空間情報から、新たな知見を得る基礎データとして役立てます。

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究課題を幅広く選択し、深く研究できるような基礎学力の修得を目標としています。

- ・ まずは、コンピュータに慣れてデジタル的な発想ができることが大切です。身の回りのいろいろな情報をデジタル化する方法、それをコンピュータで処理する技術を学びます。
- ・ また、収集したいろいろなデータに潜んでいる本質を見つけるための統計解析や、データを有益に活用するためのデータベース技術、空間情報の解析や可視化のための情報処理技術など、いろいろなアプリケーションを体験します。

## ● 着手条件

取得単位数・科目等に細かい条件はありませんが、研究室説明会には必ず出席し、教員や大学院生と良く面談して研究室の活動内容を理解してください。また、情報分野に強い興味を持った学生を希望します。これまでのコンピュータに対する知識は問いません。協調性があり、「なぜだろう」と思ったらそれを調べる探究心があり、かなり「粘り強い」性格の学生を望みます。

## ● 卒業論文

杉山大樹：GISと道路情報を利用した最短避難経路に関する研究

佐藤寛深：画像処理技術を用いた漂着ごみの定量化手法の提案

小林祐太：画像認識による海浜の特定物体認識に関する研究

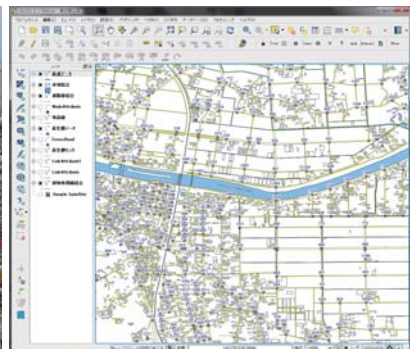
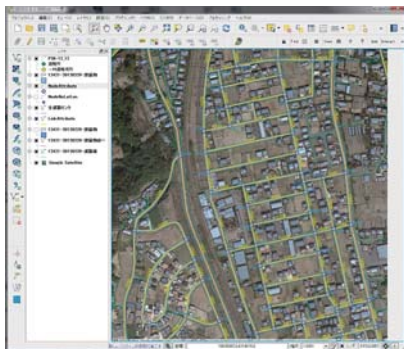
桑村邦彦：テキストマイニングによる住宅メーカーの家づくりと販売の傾向把握

野中雄斗：住宅パンフレットのテキストを対象とした住宅メーカーの類似性分析に関する研究

塩谷宗之：インターネットサイトの掲示板を対象とした評判分析の試行－住宅設備の評判分析－

## ● 修士論文

手納あゆみ：低地沿岸域における津波襲来時の車避難シミュレーションの開発



畔柳・坪井研究室

審査付論文

- ◆ 坪井望太郎：GIS オブジェクト指向概念を用いた中国の地域分析に関する研究, JPCATS・PC 利用技術学会誌, 8, 19-22, 2013.12

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 畔柳昭雄：韓国漢江における FLOATING ISLAND の動向一条件不利地域における海洋空間利用による空間拡張方策に関する調査研究 その1一, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No.26 (CD-ROM), 2013.7
- ◆ 小川雅人・坪井望太郎・畔柳昭雄：津波避難ビル指定自治体における避難困難地域の特徴に関する研究一南トラフ巨大地震を対象として一, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No.26 (CD-ROM), 2013.7
- ◆ 安彦智啓・小川雅人・坪井望太郎・畔柳昭雄：施設規模からみた津波避難ビルの特徴に関する研究, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 横田憲寛・青木秀史・坪井望太郎・畔柳昭雄：荒川流域における水屋・水塚の分布状況に関する調査研究一洪水常襲地帯における洪水に対する伝統的方策に関する調査研究 その1一, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 青木秀史・横田憲寛・坪井望太郎・畔柳昭雄：荒川流域における水屋・水塚の分布状況に関する調査研究一洪水常襲地帯における洪水に対する伝統的方策に関する調査研究 その2一, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 小川雅人・坪井望太郎・畔柳昭雄：静岡県沼津市における津波避難ビル指定の取組み課題と連携体制に関する調査研究, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 竹内寛偉・小川雅人・青木秀史・兎原貴之・田中雄基・坪井望太郎・畔柳昭雄：Bamboo Project 2012ー海辺図書館一, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 田中雄基・坪井望太郎・畔柳昭雄：施設配置からみた津波避難ビルへの避難経路に関する研究, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 坪井望太郎：東京都江戸川区における集合住宅名称の空間分布に関する研究一水関連用語の名称を事例として一, 日本建築学会大会 (北海道), 2013.8
- ◆ 青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：荒川流域における水防建築の再発見と都市化の影響, 第10回環境情報科学センターポスターセッション, 2013.12
- ◆ 小川雅人・畔柳昭雄・坪井望太郎：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的な研究一人口分布を考慮した津波避難ビル指定地域の防災性能評価その3一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 横田憲寛・青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：大井川流域における水防のための伝統的方策を有する屋敷に関する調査研究一自然環境特性と水防のための屋敷形態の関係性について一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 渡邊航一・畔柳昭雄・坪井望太郎：アユタヤ地域の洪水を基軸とした水際住居の居住空間特性と住民の意識及び行動特性に関する調査研究, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 山下聡士・並川茉央・山崎未来・畔柳昭雄：タイ・バンコクの郊外に立地する水上マーケットに関する調査研究一水上マーケットの水辺の空間的・形態的特徴の把握 その1一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 並川茉央・山崎未来・山下聡士・畔柳昭雄：タイ・バンコクの郊外に立地する水上マーケットに関する調査研究一水上マーケットの水辺の環境計測 その2一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 竹内寛偉・畔柳昭雄・坪井望太郎：海洋建築物の変遷に関する研究：1998年と2013年の動向比較, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 小暮直弘・神崎良太・畔柳昭雄・坪井望太郎：児童の意識・行動から捉えた河川空間の位置づけに関する研究一荒川下流域を対象として一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 津端里佳・畔柳昭雄・坪井望太郎：都市の水辺を活用した小学校における環境教育に関する研究一東京都江戸川区を対象として一, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 兎原貴之・畔柳昭雄・坪井望太郎：水害研究の動向に関する研究, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆ 坪井望太郎：中国における地級市・経済区を対象とした地域分析, 東京大学空間情報科学センター CSIS-DAYS2013, 2013.12
- ◆ 坪井望太郎・中林一樹・小田切利幸・土屋依子：東日本震災における被災者の高齢者支援要望一2012年調査・自由回答記述の構造分析一, 日本地理学会春季学術大会, 2014.3

- ◆ 畔柳昭雄, 山口順子, 増田光一, 恵藤浩朗, 佐藤千昭：被災地における持続可能なコミュニティ形成のための海からの支援体制構築一浮体式災害時医療支援システムの計画構想について一, 日本大学の総力を結集し, 大災害に抗した持続可能なコミュニティの実現と未来世代への継承シナリオ, 平成25年度日本大学連携研究推進シンポジウム講演集 (日本大学工学部), 2013.11.8
- ◆ 畔柳昭雄, 山口順子, 増田光一, 佐藤千昭, 恵藤浩朗, 小林昭男, 坪井望太郎, 居駒知樹, 登川幸生, 丹正勝久, 木下浩作, 斉藤俊克, 高田昌子, 谷米温子：浮体式災害時医療支援システムの計画構想について一構想概念について一, 第24回海洋工学シンポジウム, 日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会, 2014.3.13

著書・執筆等

- ◆ 坪井望太郎ほか (共著)：MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座一第3版, 古今書院, 2013.6
- ◆ 畔柳昭雄：復興庁「新しい東北」の創造に向けた調査分析事業「社会基盤 (システム)」に関する資料 (データ編) での「減災体制のメカニズム」資料掲載
- ◆ 畔柳昭雄：LM 通信, 特集アルミと建築「海洋建築家・畔柳昭雄氏が選ぶ建築家十三氏」2013.6
- ◆ 畔柳昭雄：産経新聞 朝刊, 生活版「子供が「海離れ」」インタビュー, 2013.7.10
- ◆ 畔柳昭雄：日時連会誌, インタビュー「特集 海と生きるまち「漁村から学ぶコミュニティ醸成 相互扶助で際涯に向き合う」」, 日本建築士事務所協会連合会, 2013.12
- ◆ 畔柳昭雄：テレビ朝日番組くりいむクイズ ミラクル9, 船小屋資料提供, テレビ朝日, 2014.2

作品

- ◆ 畔柳昭雄+研究室：海辺の図書館, 日本ビーチ文化振興協会, 2013.7

表彰・受賞

- ◆ 青木秀史：日本建築学会優秀卒業論文賞「荒川流域における水屋・水塚の分布状況及び居住空間特性とその変容に関する調査研究」, 2013.8

社会活動

[教授 畔柳昭雄]

- ◆ 畔柳昭雄：講演「アルミニウム建築構造一アルミ建築の可能性を広げる取り組み一」, アルミニウム建築構造協議会, 2013.6.4, (講師)
- ◆ 畔柳昭雄：海域システム講座「小さな取り組みが地域資源を生かす」, 香川大学工学部安全システム建設工学科, 2013.6, (特別招聘講師)
- ◆ 畔柳昭雄：特別講義「舟小屋を通して「建築と海」の関係を考える」, 韓国海洋大学海洋科学技術大学海洋空間建築学科, 2013.11.4 (特別招聘講師)
- ◆ 畔柳昭雄：講演「津波避難ビルの現状と課題」, 香川大学社会連携・知的財産センター技術交流会, 2013.11.21 (講師)
- ◆ 畔柳昭雄：講演「アルミニウム建築構造一アルミ建築の可能性を広げる取り組み一」, (一社) 富山県アルミ産業協会, 2014.2.18, (講師)
- ◆ 畔柳昭雄：講演「海水浴と保養地と港づくり」, 大磯港みなとまちづくり協議会, 2014.2.23 (講師)

[准教授 坪井望太郎]

- ◆ 坪井望太郎：特別講義「都市の水辺の環境と防災」, 於：江戸川総合人文学大, 2013.6 (講師)
- ◆ 坪井望太郎：特別講義「持続可能なアジアの都市環境構築一水環境問題」, 於：専修大学文学部環境地理学科, 2013.12 (講師)
- ◆ 坪井望太郎：特別講義「GIS と国勢調査データの活用」, 於：首都大学東京都市環境学部都市政策コース, 2013.10 (講師)
- ◆ 坪井望太郎：特別講義「住宅政策 (東京都地域危険度と GIS の応用)」, 日本女子大学家政学部住居学科, 2013.11 (講師)
- ◆ 坪井望太郎：特別講義「都市における親水公園の形成過程と来訪者評価」, 於：東海大学観光学部観光学科, 2013.12 (講師)
- ◆ 坪井望太郎：特別講義「GIS による東日本震災の可視化一地域を伝える地図表現」, 於：福島大学行政政策学類, 2013.12 (講師)

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 学会活動

#### [教授 畔柳昭雄]

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会委員（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築フィールド小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・都市の水辺小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・技術報告集委員会（幹事）
- ◆環境情報科学センター・企画委員会（委員）
- ◆環境情報科学センター・賞選考委員会（委員）
- ◆日本水産工学会（評議員）
- ◆沼津市・ときわ津波避難施設設計者選定委員会（委員）
- ◆神奈川県・港湾審議会（会長）
- ◆亀戸香取大門通り会・緑日ルネッサンス/レトロな街にレトロなクルマ（イベント運営・調査支援）

#### [准教授 坪井壱太郎]

- ◆日本建築学会・環境工学本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・都市の水辺小委員会（委員）
- ◆環境情報科学センター・学術研究論文集委員会（幹事・委員）

### 海外出張・海外調査

- ◆畔柳昭雄：浮体式基盤の多様性利用の調査、タイ、2014.3.13～21
- ◆坪井壱太郎：中国北京市・上海市における水資源保全に関する行政・市民ヒアリング調査、中国、2013.8.3～14.

### 研究助成・委託研究

- ◆畔柳昭雄：戸田育英財団助成金（奨励寄付金）、水環境の変化に対応した動的特性を持つ建築空間に関する総合的研究、2014.9～2015.8
- ◆坪井壱太郎：日本大学理工学部基礎科学研究助成、GISを用いた中国における水資源・環境変化の可視化に関する研究

## 桜井研究室

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆秋本悠喜・桜井慎一・鷹島充寿：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究－岩手県における現地調査結果に基づく考察－、2013年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号5-3、2013.7
- ◆寺口敬秀・桜井慎一：水中文化財を対象としたダイビング環境整備に関する研究、2013年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号5-4、2013.7
- ◆寺内将貴・桜井慎一：海水浴場における津波対策に関する研究－東北3県を除く海水浴場を有する市町村へのアンケート調査－、2013年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号7-6、2013.7
- ◆栗原聖子・桜井慎一・秋本悠喜・塚田紗衣：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究－高知県、徳島県を対象として－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10012、2013.8
- ◆秋本悠喜・桜井慎一・寺口敬秀：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究－千葉県における現地調査結果に基づく考察－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10013、2013.8
- ◆鷹島充寿・桜井慎一・寺口敬秀：常時滞水型調整池の市民開放に関する研究－千葉県内3箇所の調整池に対するアンケート調査結果－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10014、2013.8
- ◆蒲原光彦・桜井慎一・鷹島充寿：ヨーロッパの地中海沿岸域における屋根の色彩の研究－スペインからギリシャを対象として－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10015、2013.8
- ◆寺口敬秀・桜井慎一：水中文化財を対象としたダイビング環境整備に関する研究、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10016、2013.8
- ◆寺内将貴・桜井慎一・寺口敬秀：海水浴場における津波対策に関する研究－東北3県を除く海水浴場を有する市町村へのアンケート調査－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10026、2013.8
- ◆岩澤直・桜井慎一・寺口敬秀：サーフィンにおける津波対策に関する研究－全国のサーフィン連盟各支部を対象としたアンケート調査－、日本建築学会大会（北海道・北海道大学）学術講演梗概集（海洋建築部門）、講演番号10027、2013.8

- ◆秋本悠喜・桜井慎一：住民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究－東南海地方5府県における現地調査結果に基づく考察－、平成25年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）〈講演番号J-3〉、2013.12
- ◆岩澤直・桜井慎一・寺内将貴：サーファーに対する津波避難情報に関する研究－鵠沼海岸のサーファーを対象としたヒアリング調査結果－、平成25年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）〈講演番号J-25〉、2013.12
- ◆長島美菜子・桜井慎一・寺内将貴：海の家クラブ化が近隣に及ぼす影響に関する研究－神奈川県海水浴場を対象とした住民アンケート調査結果－、平成25年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）〈講演番号J-26〉、2013.12
- ◆永田佳大・桜井慎一・鷹島充寿：常時滞水型調整池の水域利用に関する研究－規模の異なる4か所の調整池の比較を通じて－、平成25年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）〈講演番号J-27〉、2013.12
- ◆栗原聖子・桜井慎一・秋本悠喜：洋上風力発電施設設置に対する漁業従事者への認識調査、平成25年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）〈講演番号J-28〉、2013.12

### 表彰・受賞

- ◆桜井慎一：船橋市、市政功労表彰（行政部門）、船橋市開発審査会委員として多年にわたり建築行政の推進に多大な貢献をした功績、2013.11
- ◆寺口敬秀：日本大学、日本大学部科校長賞（理工学部長賞）受賞、2013.3
- ◆秋本悠喜：日本沿岸域学会、研究討論会2013優秀講演賞受賞、2013.10

### 社会活動

- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会（委員）
- ◆桜井慎一：船橋市ふなばし三番瀬海浜公園活用基本・実施設計委託受託候補者選定に係る評価委員会（委員長）

### 学会活動

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・論文集委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築計画・設計指針刊行小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築設計指針調整WG（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築フィールド小委員会（主査）
- ◆日本沿岸域学会・論文集編集委員会（委員）



## 佐藤研究室

## —— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆鈴木彩美・鶴田亜有美・佐藤信治：社の空間構成に関する研究—その6 神社における鎮座形態について—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆中山博貴・佐藤信治・中山敦雄：社の空間構成に関する研究—その7 神社の参道空間の断面形状の測定方法について—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆石原幹太・佐藤信治：静岡県静岡市における地域医療拠点の提案予防介護施設・地域包括支援センターの設計, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆菅原雅之・佐藤信治：首都圏における農業活性化のための施設的设计—山手線新駅構想の一環として—, 日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆善財寛之・佐藤信治：おもてなしの文化—秋葉原における旅館の提案, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆椿 礼・佐藤信治：海上刑務所—見られることによる矯正と管理—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆岩本桃果・佐藤信治：地方財産を守る—だんじり博物館の計画, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆遠洞躍斗・佐藤信治：日常にある儀式—現代の冠婚葬祭のための空間, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆田原 拓・佐藤信治：外来生物の生物館 外来生物について想い考える場の提案, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆佐藤信治・辻 普：東京平和公園—今後の日本の平和を願って—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆山川大喜・佐藤信治：演じるまち—まちのためにまちが演じるまちの未来—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆川崎 将・佐藤信治新興への水産業—石巻市における水産業複合型施設の提案—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆徳永尚亮・佐藤信治都市の揺り籠—都市・公共交通の効率とゆりのアムニティ再考—, 第57回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆杉山洋太・佐藤信治：三陸文化伝承館の設計, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆杉田陽平・佐藤信治：瀬戸内複合浮体施設的设计—愛媛国定を事例とした共同利用化の提案—, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆涌井匠・佐藤信治：浸都の改築—海抜ゼロメートル地帯における街区更改計画—, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆望月堅次・佐藤信治：都市の裏側—下水処理施設を併設した複合住宅の提案—, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆中山淳雄・佐藤信治：社の空間構成に関する研究—その5 群馬県榛名山周辺の神社における鎮座形態について—, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆松井創斗・佐藤信治：中国北京市における双泉堡地区の設計—汚水処理場を核とした環境啓発施設の提案—, 日本建築学会大会(北海道), 2013.8

## —— 著書・執筆等 ——

- ◆建築計画教材研究会編：改訂版 建築計画を学ぶ 理工図書, 2013.4
- ◆竹中工務店、川崎重工株式会社、佐藤信治ほか：平成24年度行政事業「二酸化炭素海洋固定化・有効利用技術調査報告書」経済産業省, 2013.3
- ◆社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、佐藤信治ほか：JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展 2003-2012, 2013.1

## —— 作 品 ——

- ◆アトリエK、佐藤信治 + 佐藤信治研究室：在日ミャンマー連邦共和国大使館プロポーザルコンペ 2013.08.15 (総合第2位) 発表媒体未定
- ◆光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所(株)、佐藤信治 + 佐藤信治研究室：秋田県能代市庁舎整備事業基本設計業務委託プロポーザルコンペ (総合第6位) <http://www.city.noshiro.akita.jp/2013.07.31>
- ◆アトリエK、佐藤信治 + 佐藤信治研究室：釜石市民ホール(仮称)等建設工事設計業務委託プロポーザルコンペ, 2014.01.21 提出(審査途中)
- ◆中国建筑設計研究院 城镇规划设计院、佐藤信治 + 佐藤信治研究室：「中国安

康市旧市街地再開発設計競技」2013.9.18 商業施設部門(総合第一位) <http://ccsplanning2012.gotoip2.com/jp/projects/A07/A07003002.html>

- ◆中国建筑設計研究院 城镇规划设计院、佐藤信治 + 佐藤信治研究室：「中国安康市旧市街地再開発設計競技」2013.9/18 宿泊施設部門(総合第一位) <http://ccsplanning2012.gotoip2.com/jp/projects/A07/A07003002.html>

## —— 表彰・受賞 ——

- ◆涌井 匠：MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013-EXCELLENCE PRIZE 浸都の改築—海抜ゼロメートル地帯における街区更改計画—, 東京国際フォーラム, 2013.11
- ◆志堂佑太：住宅課題賞2013 建築系大学住宅課題優秀作品展示 竹中工務店 東京本店2F Aホール, 2013.10
- ◆久保田礼菜：第5回 Vectorworks 教育シンポジウム2013「繋がる水族館」作品展示大手町サンケイプラザ, 2013.8
- ◆菅原雅之：第5回 Vectorworks 教育シンポジウム2013 OASIS 奨学金 研究成果発表研究発表講演「福島第一原発における監視と事故原発研究機能を併設した封印施設の提案」大手町サンケイプラザ, 2013.8
- ◆菅原雅之・遠洞躍斗・鶴田亜有美・中山博貴・井出健・樋浦直紀：第二回歴史的空間再編コンペティション2013 309作品中11位(入賞)木のつくる“わ”~木都能代の再編~, 2013.9
- ◆涌井 匠：第45回毎日・DAS学生デザイン賞 建築部門(入選) 社団法人総合デザイナー協会 2013.5
- ◆伊藤春樹：第45回毎日・DAS学生デザイン賞 建築部門(入選) 社団法人総合デザイナー協会 2013.5
- ◆涌井 匠：第25回 千葉県建築学生賞(特別賞) 浸都の改築—海抜ゼロメートル地帯における街区更改計画— [http://chibagakuseisy.com/archive\\_gakuseishou/gakuseishou13/kgakusei.html](http://chibagakuseisy.com/archive_gakuseishou/gakuseishou13/kgakusei.html), 2013.3
- ◆海藤 航：第25回千葉県建築学生賞(奨励賞) 環状都市—アパレル産業における廃棄物に対する啓発施設の提案—
- ◆出山亮：建築新人戦2013 613作品中100選(入選)「選りゆく意識」2013.10 <http://kenchikushinjin.com/jquery/2013top.html>
- ◆岩本桃果・遠洞躍斗・田原拓・堤昭文・阿部鉦樹：横須賀市の海を活かしたまちづくりアイデアコンペ2013(最優秀賞)「追浜遊苑」[http://www.wave.or.jp/doc/2013/doc/yokosukashimachidukuri2013\\_houkokusho.pdf](http://www.wave.or.jp/doc/2013/doc/yokosukashimachidukuri2013_houkokusho.pdf)
- ◆鈴木彩美・善財寛之・徳永尚亮・森 浩平・山川大喜・大谷涼：横須賀市の海を活かしたまちづくりアイデアコンペ2013デザイン賞(入選)「呼吸するまち」[http://www.wave.or.jp/doc/2013/doc/yokosukashimachidukuri2013\\_houkokusho.pdf](http://www.wave.or.jp/doc/2013/doc/yokosukashimachidukuri2013_houkokusho.pdf)
- ◆杉田陽平：日本大学部科校長賞, 2013.3

## —— 社会活動 ——

- ◆佐藤信治 + 佐藤信治研究室：能代の課題、建築の将来に、北羽新報 2013.8.14, 於：秋田県能代市中心市街地
- ◆2013.8.5 ~ 2013.8.9、ワークショップ及び講演会

## —— 学外活動 ——

- ◆日本建築学会：全国建築系大学教育連絡協議会(委員)
- ◆日本建築学会・JABEE 学部課程(建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会(審査委員)
- ◆日本建築学会・JABEE 修士課程(建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会(審査委員)
- ◆東京建築士会(委員)
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議・運営委員会(委員)
- ◆千葉県建築学生賞運営委員会(委員)
- ◆秋田産業サポータークラブ委員会(委員)
- ◆海洋環境創生機構運営委員会(委員)

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 山本研究室

#### —— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆ 藤生拓身・近藤健雄・山本和清・宮崎渉・清田紘志郎：津波襲来時の避難行動と地理的条件から見た津波避難計画に関する調査研究，第25回日本沿岸域学会全国大会，2013.7
- ◆ 寺崎康雄・近藤健雄・山本和清・宮崎渉・菅原誠志：東日本大震災における津波避難行動から見た災害時要援護者避難対策に関する研究，第25回日本沿岸域学会全国大会，2013.7
- ◆ 寺崎康雄・近藤健雄・山本和清・宮崎渉・菅原誠志：全国沿岸市町村の地域防災計画における災害時要援護者避難体制に関する研究，2013年度日本建築学会大会（北海道），2013.9
- ◆ 三好隆正・近藤健雄・山本和清・宮崎渉・櫻田紘子：行政機関と民間事業者を対象とした防災船着場利用促進運用システム構築に関する基礎的研究，2013年度日本建築学会大会（北海道），2013.9
- ◆ 寺崎康雄・近藤健雄・山本和清：避難支援での災害時要援護者名簿に対する住民意識に関する研究－千葉県長生郡一宮町を対象地として－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 平松成美・近藤健雄・山本和清：ウォーターフロント都市の現状調査－ポートルネッサンス21計画を実施した港湾を対象にして－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 三好隆正・近藤健雄・山本和清：災害時要援護者におけるトリアージを考慮した避難支援計画に関する研究－千葉県長生郡一宮町を対象地として－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013/12
- ◆ 鶴 康嗣・近藤健雄・山本和清：地域防災計画における水辺施設の役割に関する研究，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 川崎 凌・川又卓弘・近藤健雄・山本和清：東京湾を中心とした企業に対する震災時の損害想定およびBCPに対する現状調査，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 高橋知子・近藤健雄・山本和清：国立青少年自然の家での水辺の活動プログラムに関する研究，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 大谷 涼・近藤健雄・山本和清：特定地域振興重要港湾の振興ビジョンの把握に関する研究－振興ビジョンの記載概要の把握－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 田久保匡・近藤健雄・山本和清：津波災害時における地域コミュニティ相互扶助の手法・あり方に関する研究，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 遠藤隼平・近藤健雄・山本和清：東日本大震災におけるマリナーの被害・復旧状況に関する研究，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 藤生拓身・近藤健雄・山本和清：災害時における自動車避難に関する調査研究－千葉県一宮町を対象地として－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 広瀬紗也加・近藤健雄・山本和清：海岸漂着ゴミに対する法整備の現状と地域連携に関する調査研究－九州地方における海ゴミに関する法整備について－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 野中大輔・近藤健雄・山本和清：海の環境教育における安全管理に関する研究－三番瀬における環境教育の安全管理において－，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12
- ◆ 小澤貴志・近藤健雄・山本和清：津波関連サインの設置計画に関する研究，第57回日本大学理工学部学術講演会，2013.12

#### —— 社会活動 ——

##### 【特任教授 近藤健雄】

- ◆ 一般社団法人日本マリナー・ビーチ協会（理事・副会長）
- ◆ 特定非営利活動法人海に学ぶ体験活動協議会 CINAC（顧問）
- ◆ 特定非営利活動法人沿岸開発機構・千葉（副会長）
- ◆ 特定非営利活動法人大阪湾みなとまち生活文化研究センター（理事長）

- ◆ 任意法人東京湾の環境をよくするために行動する会（設立発起人・顧問）
- ◆ 任意法人千葉県九十九里サロン（監事）
- ◆ 一般財団法人海洋レジャー安全協会・海の駅ネットワーク協議会（理事）
- ◆ 特定非営利活動法人沿岸環境保護協会（副理事長）
- ◆ 一般財団法人みなと総合研究所・海辺活動振興助成審査委員会（委員）
- ◆ 財団法人港湾空港建設技術サービスセンター・評議員選定委員会（委員）
- ◆ 一般社団法人みなと船橋振興協会（理事長）
- ◆ 国際マリナー会議（IMC: International Marina Congress）（日本代表委員）
- ◆ 国際航路協会（PIANC: The World Association for Waterborne Transport Infrastructure）（日本支部運営委員）
- ◆ 環境省，国土交通省，農林水産省・自然再生専門家会議委員会（委員）
- ◆ 農林水産省水産庁・政策審議会（委員）
- ◆ 農林水産省水産庁・漁港漁場整備部会（部会長）
- ◆ 神奈川県藤沢土木事務所・湘南海岸中海岸侵食対策検討委員会（委員長）
- ◆ 神奈川県土整備部・指定管理者選定審査委員会港湾部会（委員長）
- ◆ 神奈川県土整備部・相模湾沿岸海岸基本計画委員会（委員長）
- ◆ 神奈川県土整備部・東京湾沿岸海岸基本計画委員会（委員長）
- ◆ 千葉県土整備部長生土木事務所・一宮町の魅力ある海岸づくり会議（会長）
- ◆ 千葉県土整備部海匠土木事務所・匠の魅力ある海岸づくり会議（会長）
- ◆ 千葉県土整備部・千葉東沿岸海岸保全基本計画検討委員会（副委員長）
- ◆ 千葉県土整備部・東京湾沿岸海岸保全基本計画内湾検討委員会（副委員長）
- ◆ 千葉県土整備部・船橋ポートパーク管理運営状況に係る第三者評価委員会（座長）
- ◆ 千葉県館山市（参与）
- ◆ 千葉県館山市・館山市建設総合評価委員会（委員）
- ◆ 千葉県館山市・渚の駅たてやま商業施設棟テナント事業者選定審査委員会（委員長）
- ◆ 神奈川県横須賀市・横須賀港浅海域保全・再生研究委員会（委員長）
- ◆ 神奈川県横須賀市・港湾緑地指定管理者選考委員会（委員長）
- ◆ 大阪府堺市・堺市大浜市有地活用事業者選考会議（委員）

##### 【専任講師 山本和清】

- ◆ 東京都の環境をよくするために行動する会（監事）
- ◆ 一般社団法人みなと船橋振興協会（理事）
- ◆ 千葉県建築工事総合評価委員会（委員）
- ◆ 銚子市漁業協同組合建設工事総合評価委員会（委員）

- ◆ 近藤健雄：基調講演「東京湾環境再生における高度処理整備の役割と貢献」，パネルディスカッションコーディネーター「高度処理の取り組みと今後の展望」，公益社団法人日本下水道協会主催「高度処理セミナー」，2013.10

#### —— 学会活動 ——

##### 【専任講師 山本和清】

- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会（委員）
- ◆ 一般社団法人日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会（委員）

#### —— 研究助成・委託研究 ——

- ◆ 山本和清：千葉県長生郡一宮町委託研究，災害時要援護者支援対策に対する調査研究
- ◆ 山本和清（研究分担者）：日本大学学術研究助成（総合研究），沿岸漂着プラスチックから発生する化学物質汚染の実態調査と再資源化技術に関する研究

## 近藤研究室

## 審査付論文

- ◆近藤典夫・服部 諒：辺長比が大きい長方形構造物まわりの流れと流体力特性, 日本建築学会, 構造工学論文集, Vol.59B, pp.441-448, 2013.3
- ◆Norio KONDO: Numerical computation for wake-galloping vibrations of two tandem circular cylinders, Theoretical and Applied Mechanics Japan, Vol.60, pp.59-67, 2013.12

## 口頭発表・ポスター発表

- ◆近藤典夫：直列2円柱のウェイク・ギャロッピングに関する3次元数値計算, 第62回理論応用力学講演会論文集, 2013.3
- ◆神田恒平, 惠藤浩朗, 近藤典夫：数値解の保存保証性を考慮した二次元移流方程式の数値解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.3-4, 2013.8
- ◆近藤典夫：臨界間隔以降で配置された直列2円柱の渦励振, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.5-6, 2013.8
- ◆田中裕基, 近藤典夫, 惠藤浩朗：並列配置2円柱構造物の渦励振挙動に関する3次元数値シミュレーション, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.7-8, 2013.8
- ◆服部諒, 近藤典夫：断面辺長比が大きい角柱の流体力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.9-10, 2013.8
- ◆神田恒平, 惠藤浩朗, 近藤典夫：数値解の保存保証性を考慮した二次元移流

- 方程式の数値解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.3-4, 2013.8
- ◆新宮 清志・平塚聖敏・平野至哲・近藤典夫：RC球形シェルの減衰評価ーハーフパワー法に用いるフィルタ設計ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp.845-846, 2013.8
- ◆近藤典夫：並列2円柱の渦励振解析, 第26回計算力学講演会論文集, 2013.11
- ◆新宮清志・平塚聖敏・近藤典夫・平野至哲：鉄筋コンクリート造球形シェルの減衰評価ーハーフパワー法で使用するフィルタ設計を含めてー, 平成25年度日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.192-193, 2013.11

## 学会活動

- ◆日本建築学会・構造委員会・シェル・空間構造運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会・構造委員会・応用力学運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会・構造委員会・力学的感性小委員会(幹事)
- ◆日本建築学会・構造委員会・衝撃作用連成問題小委員会(幹事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・フィールド小委員会(幹事)
- ◆日本機械学会・計算力学講演会オーガナイザー

## 研究助成・委託研究

- ◆近藤典夫：科学研究費補助金(基盤研究(C))：接近した2円柱の流力振動および作用する流体力特性に関する数値的研究

## 中西・北嶋研究室

## 審査付論文

- ◆佐藤貢一・八島信良・中西三和・安達 洋：氷盤と固定式海洋構造物の動的相互作用に関する研究ー氷盤の衝突による海洋構造物の動的挙動ー, 日本建築学会構造系論文集第78巻, 第688号, pp.1185-1193, 2013.6.
- ◆佐藤匠・笠井和彦・久保田雅春・山下忠道・伊藤真二・坂田弘安・北嶋圭二・都祭弘幸・高橋孝二・清水 英・梁川幸盛・山崎康雄・岡本勇紀・犬伏徹志・鳥有希子：増幅機構付制震装置を用いた補強後建物の換算 $I_s$ 値の算出例(制振補強効果による動的性能向上倍率の算出), 日本建築学会技術報告集, Vol.19, No.42, pp.465-470, 2013.6.
- ◆石坂 優樹・古谷 章・中西 三和・田才 晃：長周期地震動を受ける超高層RC造建物の最下層中柱を対象とした多数回繰り返し載荷実験, コンクリート工学年次大会, pp.175-180, 2013.7.
- ◆佐藤貢一・八島信良・中西三和・安達 洋：氷盤の衝突による海洋構造物の動的相互作用, 土木学会論文集B2(海岸工学), Vol.69, No.2, 2013, I\_856-I\_860, pp.856-860, 2013.11.
- ◆Takeuchi Ken-ichi, Hada Masaya, Kitajima Keiji, Nakanishi Mitsukazu: Research and development of next-generation seismic response control system using super-elastic flexible members, The Japan Society of Seismic Isolation (JSSI), 13th World Conference on Seismic Isolation, Energy Dissipation and Active Vibration Control of Structures, - commemorating JSSI 20th Anniversary -, 2013.9
- ◆Akira FURUYA, Keiji KITAJIMA, Akira TASAI, Koichi KUSUNOKI, Mitsukazu NAKANISHI, Hiromi ADACHI, Hiroyuki AOYAMA: STUDY ON BEHAVIOR OF COLUMNS IN RC HIGH-RISE BUILDING UNDER LONG-PERIOD EARTHQUAKE GROUND MOTION, 第10回日中建築構造技術交流会, 2013.11
- ◆Koichi SATO, Keiji KITAJIMA, Mitsukazu NAKANISHI, Hiromi ADACHI: Vibration Analysis of Offshore Structures by Collision of Ice Floes, THE 29th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON OCEANIC SEA & SEA ICE, 2014.2

## 口頭発表・ポスター発表

- ◆渡邊恭平・山田幹平・柳田佳伸・柳川雅嘉・波田雅也・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究(その4 建物の重量偏心が滑り基礎構造に及ぼす影響), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆柳田佳伸・柳川雅嘉・渡邊恭平・波田雅也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：黒鉛を

- 摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究(その5 テーパー付き試験体の加振実験), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆波田雅也・竹内健一・新井佑一郎・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究(その3 二重鋼管ブレースとの比較実験), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆竹内健一・波田雅也・新井佑一郎・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究(その4 実大実験の概要), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆新井佑一郎・波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究(その5 実大実験の結果), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆坂東美乃利・杉本太一・難波隆行・加村久哉・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：高強度CFT柱の構造性能に関する研究(その6 長方形断面CFT柱の実験概要及びコア供試体・ブレースコンクリート柱の実験結果), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆杉本太一・坂東美乃利・難波隆行・加村久哉・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：高強度CFT柱の構造性能に関する研究(その7 中空鋼管及び長方形断面CFT柱の実験結果), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆北嶋圭二・天羽祥太・市 寿人・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震性能評価法に関する研究(その1 耐震性能評価法の提案と検討対象建物の必要減衰性能の算定), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆市原寿人・天羽祥太・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震性能評価法に関する研究(その2 保有減衰性能の算定と応答解析における構造減衰の扱いに関する検討), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆天羽祥太・市原寿人・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震性能評価法に関する研究(その3 11階建て建物に対する耐震性能評価法の検討), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆横瀬秀行・小川 勤・石渡晶悟・中西三和・安達 洋・北嶋圭二：コンクリートの材料特性に及ぼすひずみ速度の影響に関する研究(その1 試験概要), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆石渡晶悟・小川 勤・横瀬秀行・中西三和・安達 洋・北嶋圭二：コンクリートの材料特性に及ぼすひずみ速度の影響に関する研究(その2 試験結果), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8
- ◆伊藤 渚・石坂優樹・安武 悠・古谷 章・北嶋圭二・楠 浩一・田才 晃・中西三和・安達 洋：長周期地震動を受ける超高層RC造建物の最下層中柱の軸力支持性能に関する研究(その1 実験概要), 日本建築学会大会(北海道), 2013.8



## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆栗橋成紀・石坂優樹・安武 悠・古谷 章・北嶋圭二・楠 浩一・田才 晃・中西三和・安達 洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 建造物の最下層中柱の軸力支持性能に関する研究（その2 実験結果-1）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆瑞慶寛長尚・石坂優樹・安武 悠・古谷 章・北嶋圭二・楠 浩一・田才 晃・中西三和・安達 洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 建造物の最下層中柱の軸力支持性能に関する研究（その3 実験結果-2）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆櫻井陽子・黒木二三夫・中西三和・安達洋・北嶋圭二：膜構造を利用したアイスドームの制作に関する実験的研究、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆熊坂まい・廣石秀造・岡田章・上松幸平・宮里直也・斎藤公男・中西三和：“ケープル構造の動的荷重下における衝撃的張力変動に関する基礎的研究（その1 衝撃的張力の評価方法の概念と自由落下衝撃実験）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆上松幸平・廣石秀造・岡田章・熊坂まい・宮里直也・斎藤公男・中西三和：“ケープル構造の動的荷重下における衝撃的張力変動に関する基礎的研究（その2 実大規模振動実験と衝撃的張力の推測方法の検討）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆島有希子・佐藤 匠・山下忠道・笠井和彦・久保田雅春・伊藤真二・坂田弘安・北嶋圭二・都祭弘幸・山崎康：制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その10 地震入力低減倍率における余裕度係数の考慮）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆白山敦子・犬伏徹志・伊藤真二・山下忠道・笠井和彦・坂田弘安・北嶋圭二・梁川幸盛：制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その11 入力地震動の違いが動的性能向上倍率に及ぼす影響）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆山下忠道・山崎康雄・高橋孝二・伊藤真二・犬伏徹志・笠井和彦・坂田弘安・北嶋圭二：制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その12 既往の換算 IS 値との比較）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆清水 英・伊藤真二・山崎康雄・犬伏徹志・山下忠道・笠井和彦・坂田弘安・北嶋圭二：制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その13 既往換算 IS 値との精度検証）、日本建築学会大会（北海道）、2013.8
- ◆櫻井陽子・黒木二三夫・中西三和・安達 洋・北嶋圭二：エラストカを利用した膜曲面形成手法の提案（その2 複合材のエラストカ現象について）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆杉本太一・坂東美乃利・難波隆行・加村久哉・北嶋圭二：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究—長方形 CFT 柱の実験概要—、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆坂東美乃利・杉本太一・難波隆行・加村久哉・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究—長方形 CFT 柱の実験結果—、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆佐々木成紀・古谷 章・北嶋圭二・楠 浩一・田才 晃・中西三和・安達 洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 建造物の柱梁接合部の性能に関する研究（その1 実験概要）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆伊藤 渚・古谷 章・北嶋圭二・楠 浩一・田才 晃・中西三和・安達 洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 建造物の柱梁接合部の性能に関する研究（その2 実験結果）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆波田雅也・竹内健一・新井佑一郎・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究（その3 二重鋼管ブレースとの比較実験）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆竹内健一・波田雅也・新井佑一郎・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究（その4 実大実験の概要）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆新井佑一郎・波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：折返しブレースの構造特性に関する実験的研究（その5 実大実験結果）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆北嶋圭二・天羽祥太・市原寿人・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震性能評価法に関する研究（その1 耐震性能評価法の提案と検討対象建物の必要減衰性能の算定）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆市原寿人・天羽祥太・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震性能評価法に関する研究（その2 保有減衰性能の算定と応答解析における構造減衰の扱いに関する検討）、第57回理工学部学術講演会、2013.12
- ◆天羽祥太・市原寿人・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：制震補強建物の耐震

性能評価法に関する研究（その3 9階建て建物に対する耐震性能評価法の検討）、第57回理工学部学術講演会、2013.12

- ◆渡邊恭平・柳田佳伸・波田 雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達 洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その5 建物の重量偏心が滑り基礎構造に及ぼす影響）、第57回理工学部学術講演会、2013.12

### 著書・執筆等

- ◆安達 洋・北嶋圭二：特集 耐震改修の動向と新しい問題点 耐震改修の最近の動向 免震・制震“制震改修”、建築雑誌 No.762、2013.7
- ◆北嶋圭二：パッシブ制振構造設計・施工マニュアル 第3版、2013.9

### 社会活動

- ◆中西三和：東日本大震災からの教訓，“下田市との地域連携研究会，東海地震に伴う津波に対する防災・減災に向けた大学の役割～犠牲者ゼロの避難のために”，於：下田市役所、2013.6（講演）
- ◆柿崎隆夫・上田賢志・佐藤勲紀・竹村貴人・中西三和・Steven Dubowsky：持続可能なコミュニティを未来世代へ継承するための大学の役割，平成25年度日本大学連携研究推進シンポジウムパネルディスカッション、2013.11（パネラー）
- ◆北嶋圭二：設計例 既存集合住宅の制振改修（摩擦ダンパー）、「パッシブ制振構造設計・施工マニュアル第3版」講習会、2013.11（講演）

### 学会活動

#### 【教授 中西三和】

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・刊行小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築エンジニアリング小委員会（主査）
- ◆日本建築学会・震災報告書編集委員会（委員）
- ◆日本建築学会・災害本委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会（委員）
- ◆国際確認検査センター評価委員会（委員）
- ◆日本 ERI 監視委員会技術的検査（委員）

#### 【准教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会・東日本大震災報告書編集 WG（委員）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価小委員会評価例作成 WG（主査）
- ◆日本建築学会・等価線形化法に基づく耐震設計小委員会応答評価 WG（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築エンジニアリング小委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会摩擦ダンパー WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会制振普及 WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会基準対応 WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会（委員）
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会（委員）

### 研究助成・委託研究

- ◆中西三和・北嶋圭二：委託研究費、JFE スチール株式会社、高強度大幅厚比長方形 CFT の構造性能に関する研究
- ◆中西三和・北嶋圭二：委託研究費、㈱ケーエフシー、あと施工せん断補強材を用いた梁部材におけるせん断補強効果の確認（1）、（2）
- ◆北嶋圭二：委託研究費、青木あすなろ建設(株)、合理的な耐震構造に関する研究（2）
- ◆中西三和：研究奨励寄付金、㈱隅研吾建築設計事務所、アルミパネルの面内せん断試験・面外曲げ試験
- ◆中西三和：研究奨励寄付金、日本溶融亜鉛協会、溶融亜鉛めっき鉄筋のコンクリートとの附着性研究
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、日本鑄造・飛鳥建設(株)、鉄建建設(株)、レンズ型制震ダンパーの技術開発

### 浜原研究室

#### 審査付論文

- ◆ 浜原正行・福井剛・内田順子：PCaPC柱圧着目地のせん断性状、第21回プレストレストコンクリートの発展に関するシポジウム、pp.163-168、2013.10
- ◆ HAMAHARA Masayuki, FUKUI Tsuyoshi, UCHIDA Junko: Shear Behavior of Mortar Joints in Precast Prestressed Concrete Members, Proceedings of 21th Symposium on Development in Prestressed Concrete, pp.163-168、2013.10
- ◆ 福井剛・浜原正行・内田順子：異形PC鋼棒を用いたPCaPC柱のせん断終局強度、第21回プレストレストコンクリートの発展に関するシポジウム、pp.169-174、2013.10
- ◆ HAMAHARA Masayuki, FUKUI Tsuyoshi, UCHIDA Junko: Ultimate Shear Strength in Precast Prestressed Concrete Columns, Proceedings of 21th Symposium on Development in Prestressed Concrete, pp.163-168、2013.10

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆ 内山雄太・福井剛・内田順子・浜原正行：異形PC鋼棒を用いたPCaPC柱の力学的挙動に関する実験的研究 その1 実験概要と破壊経過、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 小松崎真彦・内山雄太・福井剛・浜原正行：異形PC鋼棒を用いたPCaPC柱の力学的挙動に関する実験的研究 その2 復元力特性と曲げ終局強度に対する検討、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 福井剛・内山雄太・浜原正行：異形PC鋼棒を用いたPCaPC柱の力学的挙動に関する実験的研究 その3 せん断終局強度に対する検討、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 浜原正行・内田順子・飯田達也・福井剛：PCaPC柱の圧着継目における滑り耐力に関する実験的研究 その1 実験概要および実験結果、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 原井直人・飯田達也・浜原正行・福井剛：PCaPC柱の圧着継目における滑り耐力に関する実験的研究 その2 実験結果および摩擦係数の検討、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 浜戸昇・蔵田富雄・小西智貴・嶋司靖彦・浜原正行：トラスアーチモデルを用いたPC有孔梁の終局強度設計法 その1 開口部弦材のせん断終局強度、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 嶋司靖彦・浜戸昇・蔵田富雄・小西智貴・浜原正行：トラスアーチモデルを用いたPC有孔梁の終局強度設計法 その2 開口部の曲げ終局強度、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 蔵田富雄・小西智貴・嶋司靖彦・浜戸昇・浜原正行：トラスアーチモデルを用いたPC有孔梁の終局強度設計法 その3 設計例、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 小西智貴・浜戸昇・蔵田富雄・嶋司靖彦・浜原正行：トラスアーチモデルを用いたPC有孔梁の終局強度設計法 その4 開口部終局強度の推定式、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 小池正大・大塚タ・浜原正行：PCト型柱梁接合部の応力伝達機構に関する有限要素解析 その1 接合部アスペクト比の影響、日本建築学会(北海道)、2013.8
- ◆ 大塚タ・小池正大・浜原正行：PCト型柱梁接合部の応力伝達機構に関する有限要素解析 その2 平均プレストレスと定着長さの影響、日本建築学会(北海道)、2013.8

#### 学会活動

- ◆ 日本建築学会・プレストレストコンクリート構造委員会(委員)
- ◆ PC工学会・PC技術協会賞選考委員会(委員)
- ◆ PC工学会・PC技師問題作成委員会(委員)

### 学科イベントカレンダー

#### 2014年

|          |                                 |           |                       |
|----------|---------------------------------|-----------|-----------------------|
| 4月8日(火)  | 入学式                             | 6月19日(木)  | 海洋建築工学科「公開講座」(第3回)    |
| 4月26日(土) | オリエンテーション<br>「隅田川・東京湾クルーズ」(1年生) | 6月26日(木)  | 海洋建築工学科「公開講座」(第4回)    |
| 5月上旬     | 留学生交流会                          | 7月21日(月)  | ポスター発表会(1年生)          |
| 5月24日(土) | 理工学部スポーツ大会                      | 9月上旬      | 海洋実習Ⅰ(1年生)・海洋実習Ⅱ(2年生) |
| 6月5日(木)  | 海洋建築工学科「公開講座」(第1回)              | 10月31日(金) | 学園祭(船橋校舎)～11月2日(日)まで  |
| 6月12日(木) | 海洋建築工学科「公開講座」(第2回)              | 12月6日(土)  | 理工学部学術講演会(於・駿河台校舎)    |

#### 2015年

|          |         |
|----------|---------|
| 2月上旬     | 卒業論文発表会 |
| 2月中旬     | 修士論文発表会 |
| 3月25日(水) | 卒業式     |

増田・居駒・恵藤研究室

審査付論文

- ◆増田光一・増田光弘・居駒知樹・村田一城・南清和：浮棧橋による船舶の津波防災・減災対策に関する基礎的研究・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.85-90・2013.9.
- ◆増田光弘・増田光一・南清和・居駒知樹：岸壁に係留された船舶の津波防災・減災対策に関する研究－増しもやいによる津波対策について－・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.79-84・2013.9.
- ◆増田光一・増田光弘・居駒知樹・村田一城・南清和：浮棧橋による船舶の津波防災・減災対策に関する基礎的研究・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.85-90・2013.9.
- ◆居駒知樹・増田光一・大森光・大澤弘敬：OWC 型波エネルギー変換装置のプロジェクトングウォールが一次変換性能に与える効果に関する研究・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.120-125・2013.9.
- ◆居駒知樹・中澤那世留・増田光一・仲村泰徳・林昌奎：可変ピッチ機構の導入による広範な流速域での垂直軸型水車の高性能化に関する研究・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.138-142・2013.9.
- ◆増田光一・大河原靖徳・相田康洋・居駒知樹：沿岸域の建築物における津波荷重特性に関する研究・土木学会論文集 B3（海洋開発）・Vol.69・No.2・pp.497-502・2013.9.
- ◆居駒知樹・増田光一・大森光・大澤弘敬：PW が OWC 型波エネルギー変換装置に与える効果に関する研究・沿岸域学会誌・Vo.26・No.3・掲載決定済み
- ◆笹原裕太郎・増田光弘・南清和・増田光一：係留浮体の波浪中応答解析に対する MPS 法の適用性に関する研究（第二報）・日本航海学会論文集・129号・掲載決定済み
- ◆Mitsuhiro Masuda・Koichi Masuda・Tomoki Ikoma and Kuniaki Shoji：“Behavior of a Pontoon Supported by a Mooring Dolphin in a Tsunami (First Report)”・Journal of Offshore Mechanics and Arctic Engineering・Vol.135・No.2・pp.021102-1-7・2013.5.
- ◆Mitsuhiro Masuda・Kiyokazu Minami・Koichi Masuda and Tomoki Ikoma：“A Fundamental Study on Tsunami Damage Control of Moored Vessels Using the MPS Method.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・11085・CD-ROM・2013.6.
- ◆Koichi Masuda・Tomoki Ikoma・Mitsuhiro Masuda and Kazuki Murata：“Fundamental Research on the Behaviors of Floating Vessels Moored to Floating Piers in Tsunami.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・11051・CD-ROM・2013.6.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasunori Nakamura・Chang-Kyu Rheem and Hisaaki Maeda：“Performance and Characteristics of Take-Off Power of a Vertical Axis Marine Turbine with Variable-Pitch Blades.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・11262・CD-ROM・2013.6.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Hikaru Omori・Hiroyuki Osawa and Hisaaki Maeda：“Improvement of Wave Power Take-Off Performance due to the Projecting Walls for OWC Type WEC.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・10384・CD-ROM・2013.6.
- ◆Yasunori Nihei・Tomoki Ikoma・Minori Kozen・Fumiya Sato・Motohiko Murai and Kazuhiro Iijima：“Designing process and motion characteristics of SPAR type offshore wind turbines.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・11262・CD-ROM・2013.6.
- ◆Yasunori Nihei・Midori Matsuura・Motohiko Murai・Kazuhiro Iijima and Tomoki Ikoma：“New design proposal for the TLP type offshore wind turbines.”・Proceedings of the ASME 32nd International Conference on Ocean・Offshore and Arctic Engineering (OMAE'13)・ASME・11263・CD-ROM・2013.6.
- ◆Yasunori Nihei・Tomoki Ikoma・Minoru Kozen・Motohiko Murai and Kazuhiro Iijima：“Research about Motion Characteristics of SPAR Type Offshore Wind Turbines in Wind and Wave Coexisting Conditions.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No. S4-2・CD-ROM・2013.10.
- ◆Motohiko Murai・Miki Takei・Hotsuma Saeki・Yasunori Nihei・Kazuhiro Iijima and Tomoki Ikoma：“Experimental study on a hydrodynamic behavior of a Semi-Submersible type FOWT.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No. S4-4・CD-ROM・2013.10.
- ◆Yasunori Nihei・Midori Matsuura・Motohiko Murai・Kazuhiro Iijima and Tomoki Ikoma：“A Research about Motion Characteristics of TLP type Offshore Wind Turbines in Wind and Waves.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No. S5-4・CD-ROM・2013.10.
- ◆Kazuhiro Iijima・Misako Kawai・Srinivasamurthy Sharath・Chong Ma・Yasunori Nihei・Motohiko Murai and Tomoki Ikoma：“Experimental Investigations into the Motion Characteristics of a Single-Point-Moored FOWT.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No. S5-5・CD-ROM・2013.10.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasunori Nakamura・Chang-Kyu Rheem・Hisaaki Maeda and Naseru Nakazawa：“Development of a Vertical Axis Marine Turbine with Variable Pitch Blades for Wide Range Current Speed.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No. S6-3・CD-ROM・2013.10.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yuka Watanabe・Chang-Kyu Rheem and Hisaaki Maeda：“OWC Type WECs Equipped VLFS for an Offshore Base.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No.S8-2・CD-ROM・2013.10.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Hikaru Omori・Hiroyuki Taguchi・Hiroyuki Osawa and Tsuyoshi Miyazaki：“Effects of the Projecting Wall and the End Wall to OWC Type WEC in Shallow Water.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No.S8-3 CD-ROM・2013.10.
- ◆Koichi Masuda・Tomoki Ikoma・Seiki Chiba・Mikio Waki and Kazuki Murata：“A Fundamental Study on Electrical Generation Characteristics of a Floating Type Wave Energy Converter Dielectric Elastomer.”・Proceedings of the International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy・The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE) and The Royal Institution of Naval Architects (RINA)・Paper No.S8-4・CD-ROM・2013.10.
- ◆Mitsuhiro Masuda・Kiyokazu Minami and Koichi Masuda：“A Study on Applicability of the MPS Method to Characteristic Analysis



## 教員研究業績 研究室活動業績

of Wave Drifting Force of Moored Floating Structures in Regular Waves. " Asia Navigation Conference 2013 (ANC2013) · pp.395-403 · 2013.10.

- ◆ Yutaro Sasahara · Mitsuhiro Masuda · Kiyokazu Minami and Koichi Masuda. "A Fundamental Study on Tsunami Damage Control of Vessels Moored to the Wharf by the Install More Mooring Tethers." Asia Navigation Conference 2013 (ANC2013) · pp.379-386 · 2013.10.

### ————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆ 田口裕之・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・二瓶泰範・幸前稔: SPAR 型洋上風力発電浮体の運動特性に関する実験的研究・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 中澤那世留・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・林昌奎・前田久明: 垂直軸型可変ピッチ翼水車の水車性能について その3 備讃瀬戸を例とした発電性能評価・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 渡邊由香・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・前田久明・大澤弘敬: 廃船を利用した波力発電装置の発電性能に関する一考察・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 惠藤浩朗・増田光一・居駒知樹: 海中展望塔の調査報告 その6 玄海海中展望塔に関する調査・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 相田康洋・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗: MPS 法における津波作用時の浮体-流体連成解析手法 その1 3次元 MPS 法における慣性モーメントの取扱方法と基礎的検証・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 高山淳平・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋: MPS 法における津波作用時の浮体-流体連成解析手法 その2 2次元 MPS 法におけるコンテナの挙動に関する数値実験・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋: 沿岸域の建築物に作用する津波荷重の諸特性に関する基礎的研究・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 村田一城・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗: 津波作用時の築山形状による津波遡上高に関する基礎的研究・日本建築学会 (北海道), 2013.9
- ◆ 惠藤浩朗・佐藤千昭・畔柳昭雄・村田一城・清水研・居駒知樹・増田光一・小林昭男・登川幸生・坪井聖太郎・丹生勝久・木下浩作・山口順子・斉藤俊克・高田昌子・谷米温子: 浮体式災害時医療支援システムの実現性に関する基礎的検討 その1. 河川を含む水域を活用した災害時医療支援システムの提案・日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第17号・2013A-GS5-1 · pp.101-104 · 2013.11.
- ◆ 惠藤浩朗・佐藤千昭・清水研・村田一城・居駒知樹・増田光一: 浮体式海洋構造物の構造計画手法に関する基礎的研究 その2. 大型石炭貯蔵浮体の隔壁配置に関する検討・日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第17号・2013A-GS34-1 · pp.481-484 · 2013.11.

### ————— 社会活動 —————

- ◆ 居駒知樹: 「海洋再生可能エネルギー実証試験としてのスケールモデルサイトの必要性」新潟県海洋エネルギーフォーラム・2014.2 (招待講演およびパネラー)
- ◆ 居駒知樹: 「Overview of Researches on Marine Renewable Energy in Japan」エジンバラ大学 (スコットランド) にて講演・2013.7
- ◆ 居駒知樹: 「Overview of the Researches of Very Large Floating Structure」サンパウロ大学 (ブラジル) にて講義・2013.7
- ◆ 居駒知樹: 「Methodology of Hydroelastic Analysis」サンパウロ大学 (ブラジル) にて講義・2013.8
- ◆ 居駒知樹: 「Japanese perspective on marine energy after a year in UK: Accelerating Marine Energy-UK and JAPAN Seminar」British Embassy にて講演・2014.3

### ————— 学会活動 —————

#### 【教授 増田光一】

- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築フィールド小委員会 (委員)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋教育ストラテジ委員会 (委員)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (幹事)
- ◆ 日本海洋工学学会 (理事)

- ◆ 日本海洋工学学会 (運営委員)
- ◆ 海洋エネルギー資源利用推進機構・波浪エネルギー分科会 (委員)
- ◆ 海洋工学懇談会 (幹事)
- ◆ PACON International (Bord of Director)
- ◆ 東京大学生産技術研究所 (研究員)
- ◆ テクノオーシャンネットワーク (理事)

#### 【准教授 居駒知樹】

- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築フィールド小委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築イノベーション小委員会 (委員)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋教育推進委員会 (委員)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (メンバー)
- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会 (委員)
- ◆ 海洋エネルギー資源利用推進機構・波力分科会 (委員)・海流・潮流・潮汐分科会 (委員)
- ◆ 海洋工学懇談会 (幹事)
- ◆ Grand Renewable Energy Conference 2014 分科会8 (Ocean Energy) · Co-Reader
- ◆ PACON2014 Local Organizing Committee (委員)
- ◆ OMAE2014 Session Organizer
- ◆ IEC-TC114 波力装置実証試験法 (62600-103) 検討委員会 日本代表委員
- ◆ 東京大学生産技術研究所 (協力研究員)

#### 【助教 惠藤浩朗】

- ◆ 日本建築学会・海洋建築本委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築デザイン小委員会 (幹事)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築イノベーション小委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・技術報告集委員会 (委員)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会・構造部会 (メンバー)
- ◆ 日本船舶海洋工学学会・東部支部編集委員会 (委員)
- ◆ PACON2014 Local Organizing Committee (委員)
- ◆ VCAD システム研究会 (研究員)
- ◆ 私立大学キャンパスシステム研究会・第一分科会 (運営委員長)
- ◆ 私立大学キャンパスシステム研究会・メディアコミュニケーション局 (運営委員長)

### ————— 海外出張・海外調査 —————

- ◆ 増田光一: OMAE2013 講演およびストラスクライド大学セミナー講演・フランスおよびイギリス・2013.6.9-19
- ◆ 増田光一: マリーナベイスタジアム調査・シンガポール・2013.9.8-11
- ◆ 増田光一: ホーチミン天然資源環境大学セミナー講演・ベトナム共和国・2013.10.22-25
- ◆ 増田光一: ICEEHE2013 参加・ミャンマー・2013.12.21-24
- ◆ 居駒知樹: 英国・スコットランド・グラスゴー・ストラスクライド大学船舶海洋工学学科に長期派遣研究員として出張・2012.9.25-2013.9.26
- ◆ 居駒知樹: OMAE2013 講演・フランス・2013.6
- ◆ 居駒知樹: EAWOMEN2013 講演・中華人民共和国・2013.10.17-20
- ◆ 居駒知樹: ホーチミン天然資源環境大学セミナー講演・ベトナム共和国・2013.10.22-25
- ◆ 居駒知樹: Research Meeting-University of Strathclyde, 英国, 2014.1.20-26

### ————— 研究助成・委託研究 —————

- ◆ 増田光一: 財団法人港湾空港技術サービス寄付金・作業船の津波による被害とその対策に関する研究
- ◆ 増田光一・木下健: 東京大学生産技術研究所研究奨励寄付金・海洋再生エネルギーに関する研究
- ◆ 居駒知樹: 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究 (C)・能動的ピッチ制御を適用した潮流・海流発電のための高性能垂直軸型水車の研究開発 (代表者)

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 大塚研究室

#### 審査付論文

- ◆大塚文和・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ浮遊幼生の鉛直移動モデルの構築について、土木学会論文集 B3 (海洋開発) (69 巻 2 号), 2013.6
- ◆川西利昌・大塚文和：周辺及び指向性を持つ線量計によるふなばし三番瀬海浜の線量率測定、日本建築学会環境系論文集 (79 巻 695 号), 2014.1
- ◆川西利昌・大塚文和：沖縄県宮古島における雲と天空紅斑紫外線放射照度・輝度変化に関する研究、日本建築学会環境系論文集 (78 巻 693 号), 2013.11
- ◆川西利昌・大塚文和：低緯度地域の快晴時天空紅斑紫外放射輝度分布と日除けの建築的太陽防射指数 ASPF、日本建築学会環境系論文集 (79 巻 696 号), 2014.2

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆大塚文和・三角裕志・川西利昌・増田光一：極浅海域を対象にした漂流計測システムの開発について、日本沿岸域学会研究討論会, 2013.7
- ◆大塚文和・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ幼生の成長速度の推定について、日本建築学会大会, 2013.8
- ◆方嶺稜・大塚文和・川西利昌：船橋三番瀬海浜公園における放射性物質の実

態解析について、第 57 回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12

- ◆鈴木健一・大塚文和・川西利昌：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量実態解析について、第 57 回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆亀井湧介・川西利昌・大塚文和：紫外線日除けチャートの作成法に関する研究、第 57 回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆三角裕志・大塚文和・川西利昌：東京湾におけるアサリネットワークの基礎的研究、第 57 回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12
- ◆鈴木康貴・大塚文和・川西利昌：東京湾を対象にした環境変動の解析・予測に関する研究—東京湾における地形変化に伴う流況変化に関する研究—、第 57 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 2013.12
- ◆吉松亮一・大塚文和・川西利昌：東京湾における熱環境に関する基礎的研究、第 57 回日本大学理工学部学術講演会, 2013.12

#### 学会活動

- ◆日本沿岸域学会・論文委員会 (委員)
- ◆海洋調査技術学会・企画委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築設計指針作成 WG (委員)
- ◆日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会 (委員)

### 岡本研究室

#### 審査付論文

- ◆Kyoichi OKAMOTO and Kenji HOTTA: Purification System of Ocean Sludge by Using Coagulants and Activating Microorganisms. International Journal of GEOMATE (Geotec. Const. Mat. & Env.), Vol.4, No.2 (Sl. No.8), pp. 574-579, June, 2013
- ◆Kyoichi OKAMOTO, Kenji HOTTA, Takeshi Toyama and Hideki Kohno: PURIFICATION SYSTEM OF OCEAN SLUDGE BY ACTIVATING MICROORGANISMS. International Journal of GEOMATE (Geotec. Const. Mat. & Env.), Vol.6, No.1 (Sl. No.11), pp. 791-795. March, 2014.

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆岡本強一・遠山岳史：海の除染—マイクロバブルと微生物活性を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの溶出、日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 2013.6.
- ◆山下和浩・岡本強一：マイクロバブルと微生物活性剤を用いた堆積汚泥の浄化実験—活性剤の酵素成分比率による浄化性能—、日本沿岸域学会論文集, 2013.7.
- ◆岡本強一・堀田健治：Purification System of Ocean Sludge by Using Coagulants and Activating Microorganisms. 第 7 回 海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム, 2013.11.

- ◆吉瀬 遼・飛田奈央・岡本強一：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験 その 1. 流速変化が硫化水素に与える影響、日本大学理工学部学術講演会論文集, 2013.11.
- ◆飛田奈央・吉瀬 遼・岡本強一：微生物活性剤を用いた循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験 その 2. 最適流速の継続時間が浄化性能に与える影響、日本大学理工学部学術講演会論文集, 2013.11.
- ◆西野元貴・中阪大貴・山下和浩・岡本強一：微生物活性剤として酵素成分を用いた堆積汚泥の浄化実験—プロテアーゼ、セルラーゼの最適な配合比率の検討—、日本大学理工学部学術講演会論文集, 2013.11.
- ◆曾根孝亮・山下和浩・岡本強一：マイクロバブルと微生物活性剤を用いた堆積汚泥の循環型浄化システムにおける微生物の特定、日本大学理工学部学術講演会論文集, 2013.11.
- ◆平野廣佑・遠山岳史・岡本強一・西宮伸幸：過酸化水素を用いた海底堆積汚泥内に含有するセシウムの除染、第 24 回海洋工学シンポジウム, 2014.3.

#### 学会活動

- ◆一般社団法人日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (委員)
- ◆一般社団法人日本船舶海洋工学学会・IMPACT 研究委員会 (委員)
- ◆特定非営利活動法人海の森づくり推進協議会 (理事)
- ◆東京大学生産技術研究所 (協力研究員)

### 小林研究室

#### 審査付論文

- ◆小林昭男・宇多高明・遠藤将利・増田康太：洞沼親沢鼻の近年の変形と東北地方太平洋沖地震時の地盤沈下の影響、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L701-L705, 2013.11
- ◆遠藤将利・小林昭男・宇多高明・芹沢真澄：セルオートマトン法を用いた 3 次元海浜変形予測モデルの現地海岸への適用、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L526-L530, 2013.11
- ◆本島真也・小林昭男・宇多高明・遠藤将利：大洗磯浜海岸における花崗岩礫の追跡調査、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L526-L530, 2013.11
- ◆宇多高明・野志保仁・熊田貴之・水垣浩・宇野晃一：九十九里浜北部 (飯岡漁港～片貝漁港) の地形変化の再現と長期予測、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L531-L535, 2013.11
- ◆宇多高明・熊田貴之・野志保仁・荒芝良彰：茨城県銚田海岸の季節的海浜地形変動と潜突堤の効果検討、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L706-L710, 2013.11
- ◆宇多高明・星上幸良・酒井和也・野志保仁：岩手県陸前高田市の高田松原の砂浜再生計画の検討、土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.69, L731-L735, 2013.11

- ◆小林昭男・宇多高明・遠藤将利・野志保仁：房総半島南部の豊岡海岸における人為改変による自然海浜の狭小化、土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.69, pp.L790-L795, 2013.6
- ◆小林昭男・宇多高明・野志保仁・遠藤将利・大草佑介：幕張人工海浜における養浜礫の移動堆積状況の実測、土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.69, pp.L826-L831, 2013.6
- ◆遠藤将利・小林昭男・宇多高明・野志保仁・片江友美：近接した人工海浜での沿岸漂砂の卓越方向の反転、土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.69, pp.L940-L945, 2013.6
- ◆Akio Kobayashi, Takaaki Uda, Masatoshi Endo, Yasuhito Noshi : Beach Erosion Triggered by River Mouth Dredging as a Measure Against River Mouth Closure. Proceedings of the 7th International Conference on Asia and Pacific Coast 2013, vol.7, pp. 113-120, September, 2013.
- ◆Masatoshi Endo, Akio Kobayashi, Takaaki Uda, Yasuhito Noshi : Disappearance of Sandy Beach Triggered by Extension Of Fishing Port Breakwater and Excess Land Reclamation. Proceedings of the 7th International Conference on Asia and Pacific Coast 2013, vol.7, pp. 288-294, September, 2013.

## 教員研究業績 研究室活動業績

◆Noshi Yasuhito, Takaaki Uda, Masumi Serizawa, Takayuki. Kumada: Topographic changes on Ajigaura Beach triggered by elongation of offshore breakwater, Asian and Pacific Coasts 2013, Proc. 7th International Conf., pp. 121-129, September, 2013.

### 口頭発表・ポスター発表

◆小林昭男・宇多高明・遠藤将利・星上幸良・野志保仁：岡本川河口への堆砂防止策としての導流堤の効果および養浜に伴う飛砂害，日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM），論文 No.08-04，2013.7

◆小林昭男・宇多高明・野志保仁・遠藤将利・本島真也・星上幸良：内房に位置する保田海岸の人工化要因の検討，日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM），論文 No.08-03，2013.7

◆星上幸良・宇多高明・小林昭男・小澤宏樹・野志保仁：船形漁港の防波堤背後の堆砂と堆砂防止用突堤の効果検証，日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM），論文 No.08-02，2013.7

### 受賞

◆黒澤祐司・小林昭男・宇多高明・野志保仁・遠藤将利・古谷真広：粗粒材養浜後の円磨度の変化とすりへり試験，沿岸域学会誌 Vol24.No.2,pp.55-64, 2013.7（日本沿岸域学会・論文賞）（日本海洋工学会 JAMSTEC 中西賞）

◆小林昭男・宇多高明・遠藤将利・星上幸良・野志保仁：岡本川河口への堆砂防止策としての導流堤の効果および養浜に伴う飛砂害，日本沿岸域学会研究討論会（日本沿岸域学会・優秀講演賞）

### 社会活動

◆市原市建築審査会（委員）

◆国土交通省中部地方整備局 駿河海岸有脚式離岸堤損傷に関する対策検討委員会（委員）

### 学会活動

◆日本沿岸域学会（理事）

◆日本海洋工学会（理事）

◆日本海洋工学会・運営委員会委員（委員）

◆土木学会・海洋工学委員会・沿岸域研究連携推進小委員会（委員）

◆土木学会・海洋開発論文集査読委員会（委員）

◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）

◆日本建築学会・優秀卒業修士論文選考委員会（委員）

### 海外出張・海外調査

◆小林昭男・野志保仁：第7回アジア太平洋海洋学会 APAC2013 での研究発表と情報収集，インドネシア・バリ

◆小林昭男・野志保仁：ベトナム天然資源環境大学でのセミナー参加とホーチミン天然資源環境大学との学術交流，ベトナム・ホーチミン

◆小林昭男：第1回エネルギー・環境・人間工学に関する国際学会（ICEEHE 2013）への参加とミャンマー海事大学との学術交流，2013.12.21-24

### 研究助成・委託研究

◆小林昭男：日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），礫養浜後の堆砂機構の解明と数値予測モデルの構築

◆野志保仁：日本大学理工学部理工学研究所委託研究，千葉県九十九里浜における海浜変形計算

## 登川研究室

### 口頭発表・ポスター発表

◆小林尚史，佐藤秀人，登川幸生，プラスチックの分解生成物による沿岸域汚染に関する研究，第26回沿岸域学会研究討論会，No.25，S11-2，CD-ROM，2013.07

◆山本守和・登川幸生・望月宏樹：画像処理技術を用いた海浜部における廃棄物検出手法に関する基礎的研究 その1 画素操作フェイス，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-2分冊，pp75-76，2013.08

◆望月宏樹・登川幸生・山本守和：画像処理技術を用いた海浜部における廃棄物検出手法に関する基礎的研究 その2 検出フェイス，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-2分冊，pp77-78，2013.08

◆登川幸生・恵藤浩朗・山本守和，自動車による避難シミュレーションに関する基礎的研究 シミュレーションプログラムの試作，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-2分冊，pp79-80，2013.08

◆手納あゆみ・登川幸生・山本守和：建築作品のデータベース化に基づく特徴把握に関する研究 建築諸元による分析，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-2分冊，pp101-102，2013.08

◆Katsuhiko Saido, Akifumi Okabe, Koshiro Koizumi, Morikazu Yamamoto, Hideto Sato, Sachio Togawa : New Global Contamination Generated from Plastic, 246th American Chemical Society (ACS) National Meeting, Indianapolis, Indiana, USA, No151, 2013.09

◆Koshiro Koizumi, Hideto Sato, Sachio Togawa : Analysis of New Chemical Contamination Generated from Debris Polystyrene Surround on Japan, 246th American Chemical Society (ACS) National Meeting, Indianapolis, Indiana, USA, No44, 2013.09

◆小泉公志郎，佐藤秀人，岡部顕史，登川幸生：海洋廃棄ポリスチレンによる日本沿岸のスチレンオリゴマー汚染の実態調査，環境科学会 2013 年会講演要旨集，pp.117，2013.09

◆望月宏樹，登川幸生，山本守和：漂着ごみの実態調査を目的としたスマートフォン用アプリケーションの開発，第12回情報科学技術フォーラム，D-022，CD-ROM，2013.09

◆恵藤浩朗，佐藤千昭，畔柳昭雄，村田一城，清水研，居駒知樹，増田光一，小林昭男，登川幸生，坪井聖太郎，丹生勝久，木下浩作，山口順子，斎藤俊克，高田昌子，谷米温子：浮体式災害時医療支援システムの実現性に関する基礎

的検討 その1. 河川を含む水域を活用した災害時医療支援システムの提案，日本船舶海洋工学会講演会論文集 第17号，2013A-GS5-1，pp.101-104，2013.11.

◆山本守和，佐藤秀人，岡部顕史，登川幸生，西野晃充，小林尚史：沿岸漂着プラスチックから発生する化学物質汚染の実態調査と再資源化技術に関する研究 2. 北海道沿岸での調査，日本大学理工学部学術講演会梗概集，D1-17，2013.12

◆小林尚史，佐藤秀人，小泉公志郎，道祖土勝彦，西野晃充，登川幸生：沿岸漂着プラスチックから発生する化学物質汚染の実態調査と再資源化技術に関する研究 3. スチレンオリゴマーの発生要因に関する室内実験，日本大学理工学部学術講演会梗概集，D1-18，2013.12

◆泉 隆・瀬沼航太郎・作田幸憲・三枝健二・望月 寛・佐田達典・登川幸生・入江寿広：災害時安否確認システムの開発と試行実験（その2），日本大学理工学部学術講演会梗概集，A-4，2013.12

◆望月宏樹・登川幸生・佐藤寛深・小林祐太：画像処理を用いた海浜部における漂着ゴミの判別手法の提案，情報処理学会大会論文集，3Q-6，CD-ROM，2014.03

### 学外活動

◆日本建築学会情報委員会委員（幹事）

◆日本建築学会情報ネットワーク委員会（幹事）

◆日本建築学会ホームページWG（委員）

◆日本建築学会情報システム技術委員会ホームページWG（幹事）

◆日本建築学会情報システム技術委員会スマート建築モニタリング応用小委員会（委員）

### 研究助成・委託研究

◆未来のみなとづくり助成（調査研究）みなと総合研究財団，低地沿岸域における津波襲来時の車避難による安全な避難手法シミュレーションに関する研究

◆千葉県長生郡一宮町委託研究，津波発生時に車を使用した避難シミュレーションに関する調査・研究

◆総務省委託研究，スマートコミュニティにおけるエネルギーマネジメント通信技術の実現（研究分担者）

◆日本大学学術研究助成（総合研究），沿岸漂着プラスチックから発生する化学物質汚染の実態調査と再資源化技術に関する研究（研究分担者）



平成  
25  
年度

## 卒業生の就職状況

就職指導委員 浜原 正行

## 1. 全体状況

本年度（平成26年1月末現在）の就職内定率は学部93.0%、大学院100%、全体で94.1%であり、昨年の全体での就職内定率84.1%を上回るなど、引き続き堅調に推移しています（表1）。これは、日本経済におけるアベノミクス効果、東日本大震災復興特需、東京オリンピックの開催決定等によるものであると考えられ、今後もこの好調は維持する可能性が高いと思われます。就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートと企業の紹介を行い、一人でも多く就職内定を勝ち取るよう働きかけています。

## 2. 業種別就職状況

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く43名（38.8%）を占めているほか、建設関連業18名（16.2%）、住宅・不動産業18名（16.2%）であり、全体の71.2%を占めています。また、設計事務所11名（9.9%）のほか、海洋・建設関連業6名（5.4%）への就職先がみられるのも、本学科の特徴です。

## 3. 次年度の就職活動に向けて

本年度の内定状況は、前年度より、かなり上向いているといえます。しかし、採用に至るまでのハードルは、決して低くなっているわけではありません。一例として、ある建設会社における採用にいたるまでのプロセスを以下に示します。

## ① エントリーシート提出

（本学・学科OB、OGによるリクレーター面接）

## ② SPI試験

## ③ 人事担当者による面接

## ④ 専門試験

## ⑤ 役員による面接

## ⑥ 内定

本プロセスにおいて、②のSPI試験では言語能力と数的能力が試されます。③および⑤の面接では、志望動機は勿論のこと、これまでの生き方を含む、全人格を問われる内容が主に質問されます。また、個々

の質問では、エントリーシートで書いた内容（長所や短所など）がチェックされます。さらに、④の専門試験では、構造、施工、法規、計画などの多岐に亘る内容が出題されます。このようなハードルを乗り越えるためには、まず、日頃から学業に熱心に取り組むことがとても大切です。専門試験以外のハードルを乗り越えるためには、学内の就職セミナーの活用がとても効果的です。理工学部では、エントリーシートの書き方、SPI試験の対策、面接対策などの系統立てた就職対策セミナー及び公務員試験対策セミナーを開催しています。就職を希望する学生、公務員を希望する学生は是非参加してください。

学科の就職指導は担当教員（1名）と学科事務（2名）が担当しており、求人票やパンフレットの管理、履歴書の配布などはもとより、さまざまな進路相談も受け付けています。就職活動に際して、困ったことがあったらいつでも気軽にご相談ください。また、就職活動開始前に、必ず「NU就職ナビ」に個人情報を登録してください。本サイトに登録することで、求人情報が指定のメールアドレスに届くほか、就職活動において様々な有益な情報を得ることができます。

## 《平成25年度の主要就職内定先》

- 建設業……………大林組／清水建設／大成建設／戸田建設／前田建設工業／三井住友建設／東洋建設／鴻池組／
- 住宅不動産業……………旭化成ホームズ／一条工務店／大和ハウス工業／積水ハウス／
- 設計事務所……………NTTファシリティーズ／類設計室／能勢建築構造研究所／
- 設備関連業……………高砂熱学工業／丹青社／富士ピーエス／
- 公務員……………国土交通省／東金市／
- 海洋・建設関連業……………五洋建設／東亜建設工業／ゼニヤ海洋サービス／日本港湾コンサルタント／国際航業／八千代エンジニアリング／

表1 平成25年度の就職・進学状況（学部・大学院）

|           | 学部   |      |      | 大学院 |     |      | 学部・院<br>合計 | 学部・院合計 |      |
|-----------|------|------|------|-----|-----|------|------------|--------|------|
|           | 男子   | 女子   | 男女合計 | 男子  | 女子  | 男女合計 |            | 24年度   | 23年度 |
| 合計（人）     | 113  | 15   | 128  | 17  | 3   | 20   | 148        | 134    | 146  |
| 就職希望者（人）  | 87   | 13   | 100  | 16  | 2   | 18   | 118        | 107    | 113  |
| 内定        | 81   | 12   | 93   | 16  | 2   | 18   | 111        | 90     | 91   |
| 未定        | 6    | 1    | 7    | 0   | 0   | 0    | 7          | 17     | 22   |
| 内定率（%）    | 93.1 | 92.3 | 93.0 | 100 | 100 | 100  | 94.1       | 84.1   | 80.5 |
| 大学院進学（人）  | 24   | 1    | 25   | 1   | 1   | 2    | 27         | 23     | 27   |
| 本学        | 24   | 1    | 25   | 1   | 1   | 2    | 27         | 20     | 26   |
| 他大学       | 0    | 0    | 0    | 0   | 0   | 0    | 0          | 3      | 1    |
| その他（人）    | 2    | 1    | 3    | 0   | 0   | 0    | 3          | 4      | 6    |
| 研究生       | 0    | 0    | 0    | 0   | 0   | 0    | 0          | 0      | 1    |
| 留学（希望者含む） | 1    | 0    | 1    | 0   | 0   | 0    | 1          | 1      | 1    |
| 専門学校      | 0    | 1    | 1    | 0   | 0   | 0    | 1          | 0      | 0    |
| 次年度公務員志望  | 0    | 0    | 0    | 0   | 0   | 0    | 0          | 1      | 0    |
| 就職意思のない者  | 1    | 0    | 1    | 0   | 0   | 0    | 1          | 2      | 4    |

# 海と建築

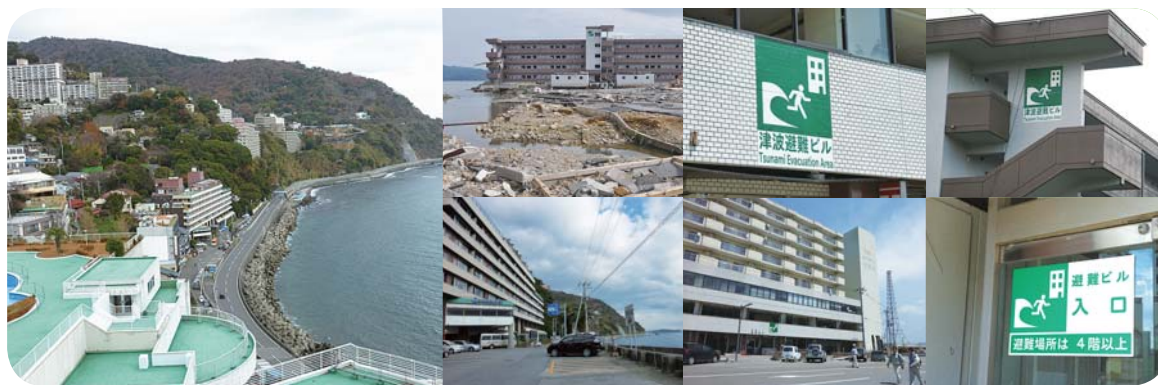
vol.  
3

2004年に発生したスマトラ沖地震での津波被害を契機に、わが国でも翌2005年に沿岸域における人的被害の最小化の観点から、内閣府による「津波避難ビル等に係るガイドライン」が策定されています。

津波避難ビルとは、津波による被害が想定される地域の中でも、地震発生から津波到達までの時間的猶予や、地形的条件等の理由により、津波からの避難が特に困難と想定される地域に対し、適用される緊急的・一時的な避難施設を指し、2011年の東日本大震災発生直後の

6月末時点では、全国で1876棟が指定されていましたが、同年10月末時点では、約2倍にあたる3986棟まで指定数が増加しています（内閣府・国土交通省調査）。

津波避難ビルの建築的要件には、ガイドラインでは「3階建て以上（2階屋上を含む）の鉄筋コンクリート造（RC）、または鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）」のほかに、「1981年（昭和56年）の建築基準法における新耐震基準を満たすもの」が挙げられています。しかし、津波避難ビルは、避難専用施設ではなく、既存の民間の居住施設（マンション等）や商業施設が指定されることから、避難時における夜間・休日の対応やオートロックの開錠、建物所有者の同意・承諾に係る課題も残されています。そのため今後発生が予想されている南海トラフ巨大地震への対応の観点からもその対応が急務になっています。



## 教員異動

本年度をもって、本学科の特任教授 川西利昌先生がご退職されます。

また、教授 近藤健雄先生は特任教授にご就任されます。1978年の本学科設立以来、長きにわたるご指導を頂きましたこと、心より御礼を申し上げます。

# 海建

カイケンマガジン No.95 発行者／小林昭男 発行日／平成26年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部海洋建築工学科教室  
Tel : 047-469-5420 (事務室) Fax : 047-467-9446

編集委員：畔柳昭雄、坪井壘太郎  
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>  
デザイン制作—QB System Co.,LTD.